

住み続けたい地域と

働き続けたい職場に関するアンケート

調査報告書



四日市大学

目次

第1章 調査の概要	1
第2章 居住地への満足度	9
第3章 働きがいとエンゲージメント	17
第4章 職務満足と不満足 ―Herzbergの視点から―	25
第5章 居住移動と空き家	31
第6章 調査の小括	39
付録1 単純集計.....	43
付録2 自由回答.....	62
付録3 調査票.....	65
執筆者（執筆順）	75

第1章 調査の概要

三田泰雅

1. 調査の目的と背景

この報告書は、名張市内の事業所に勤める従業員を対象として行った「住み続けたい地域と働き続けたい職場に関するアンケート」の結果をまとめたものである。この調査は「四日市大学特定プロジェクト研究：実践する総合政策」（研究代表者：三田泰雅）の一環として実施された。同プロジェクトは名張市における人口減少の衝撃をやわらげることをめざし、若年層や外国人住民の定住促進と、郊外住宅地の再活性化をはかるもので、名張商工会議所と四日市大学が連携して2024年度よりスタートした。

人口減少には、死亡数が出生数を上回ることにより発生する自然減と、転出数が転入数を上回ることによって発生する社会減の2つの側面がある。いずれも重要ではあるが、今回の調査ではまずは社会減の側面に焦点をあて、人口流出に関わる名張市の暮らしやすさと働きやすさを考えることになった。

調査では人々が現住地や勤務先をどのように評価しているかをたずねた。暮らしやすさにつながる政策とはどんなものか、職場への帰属意識や仕事のモチベーションを高める要因はどんなものか。これらの問いを通して、市民にとってニーズの高い政策分野や、働きやすい職場の条件といったものを明らかにすることが本調査の目的である。

はじめに本章では調査の概要を紹介するとともに、回答者の基本的属性とその分布についても検討を行う。なお集計にあたって無回答のケースは除外している。

2. 調査方法

調査は次のように行った。

<調査主体>

四日市大学公共政策研究所、名張商工会議所

<調査対象>

名張商工会議所の呼びかけに賛同した名張市内の事業所（29）に勤務するすべての従業員2,480名（全数調査）。

<調査方法>

web調査による。各事業所にはオンラインフォームの記載されたメールを配信し、スマートフォンやPCから回答を得た。調査は無記名である。

<調査期間>

2024/8/26～2024/9/15

<回収>

有効回収数 406 (16.3%)

<参加企業>

次の 29 事業所から協力を得た。企業名は回答中の記載にもとづく（順不同）。

オキツモ、菊水テープ、エナジーウィズ、ジェイテクト、タカキタ、名張近鉄ガス、藤森工業、フジシール、ボルグワーナー、アドバンスコープ、LIXIL、ユー、アクサ生命、グッドライフ、忍法赤目プリン、サロンアスピア、MSJ

3. 調査対象者の属性

調査は、性別や年齢などの人口学的特性や、学歴・職業などの社会経済的特性についてたずねている。今回の調査の回答者の属性は次のようであった。

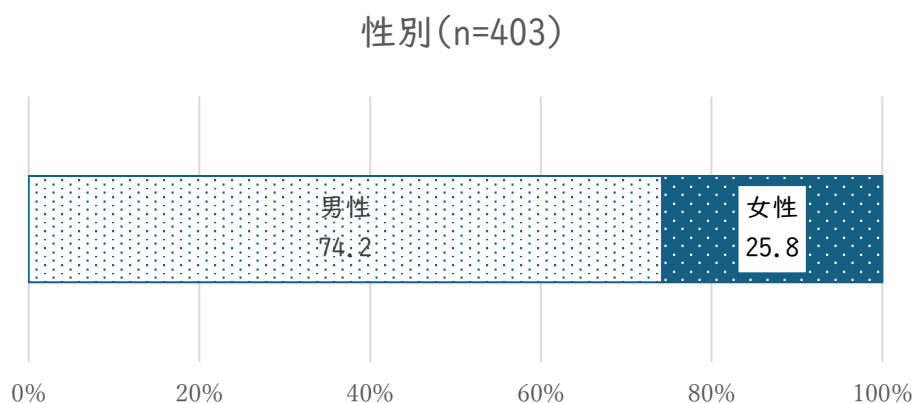


図 1-1 性別

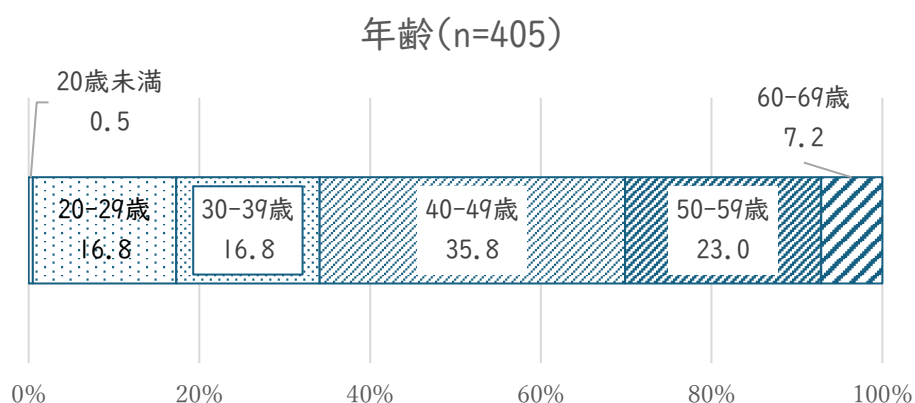


図 1-2 年齢

性別では男性が 74.2%、女性が 25.8%となっていた。4 分の 3 が男性の回答であることに注意したい。また年齢では、40 歳代が 35.8%、50 歳代が 23.0%と、中高年の世代が

回答者の中心となっている。ただし 20 歳代・30 歳代もそれぞれ 16.8%ずつおり、一定の回答は得られている。

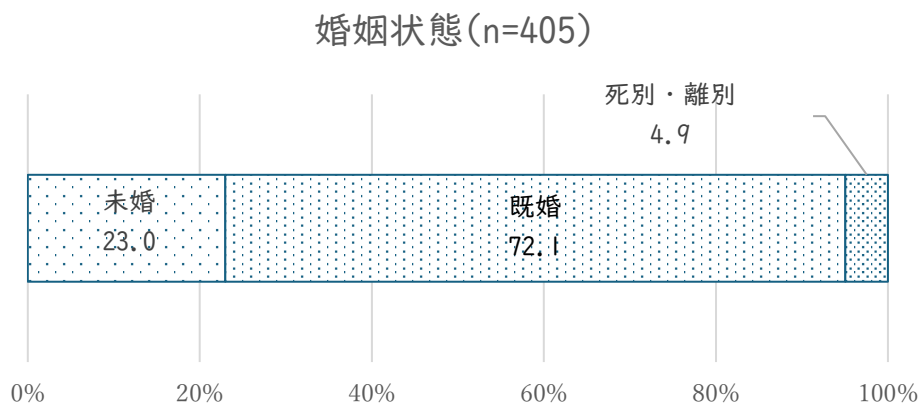


図 1-3 婚姻状態

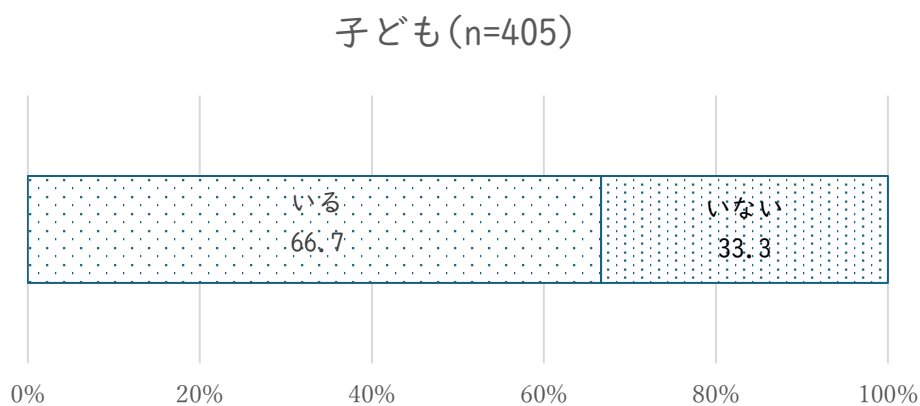


図 1-4 子どもの有無

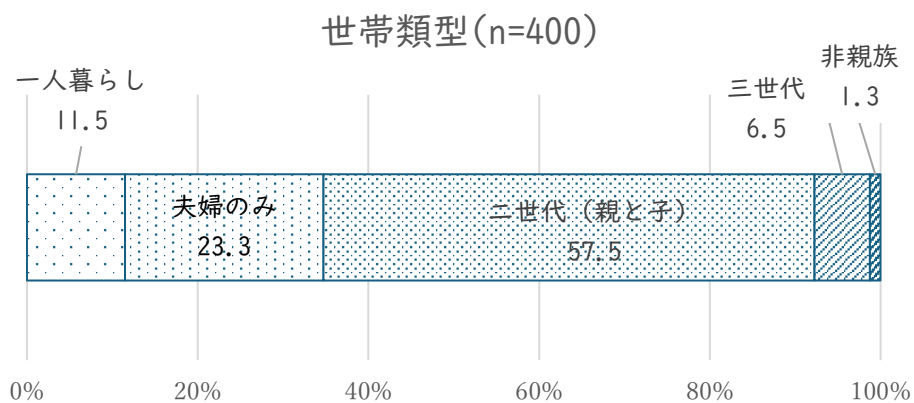


図 1-5 世帯類型

年齢構成からもうかがえる通り、未婚者が 23.0%であったのに対して既婚者が 72.1%と、回答者の大多数が既婚者である。また 4.9%は死別または離別していた。子どもをもつ回答者は 66.7%と、ほぼ 3 分の 2 を占める。

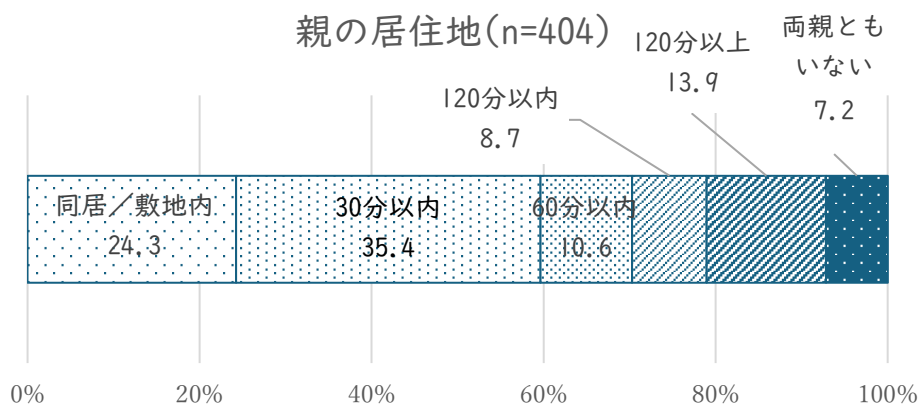


図 1-6 親の居住地

調査では、親との同別居状況もたずねている。全体の 4 分の 1 が親と同居しており、35.4%の回答者が 30 分以内であった。あわせて 6 割以上は親と同居または近居して生活している。一方で 120 分以上かかる遠距離に住んでいる回答者も 13.9%いる。

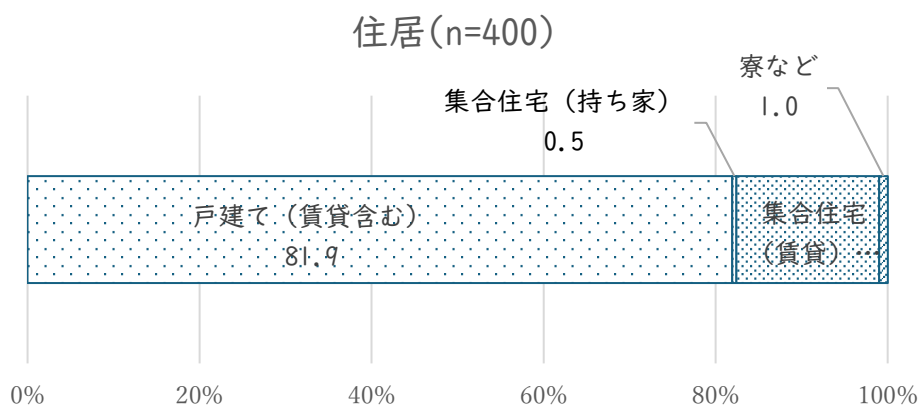


図 1-7 住居の形態

住居の面では、8 割以上が戸建て住まいであり、集合住宅に住む人は 2 割程度であった。集合住宅はほとんどが賃貸であり、分譲の集合住宅に住む人は 0.5%にとどまる。また寮などの給与住宅に住む人は 1%であった。

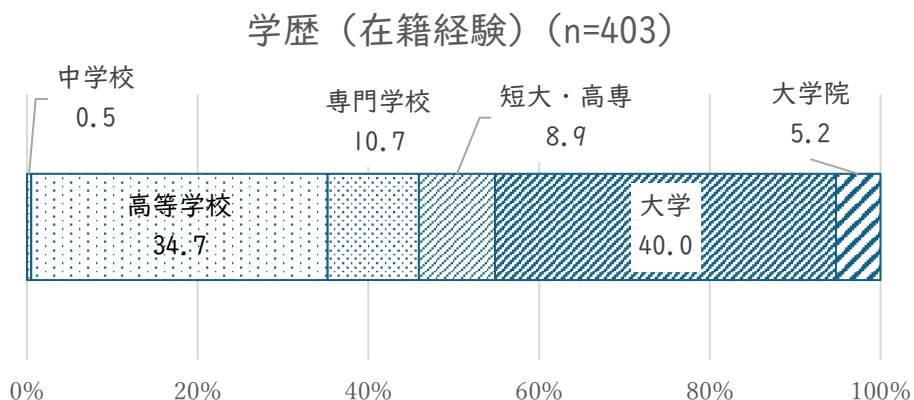


図 1-8 最終在籍学校

今回の調査では卒業の有無にかかわらず、最後に在籍した学校をたずねている。大学が40%、大学院は5.2%と、比較的学歴の高い回答者が多かったことがうかがえる。

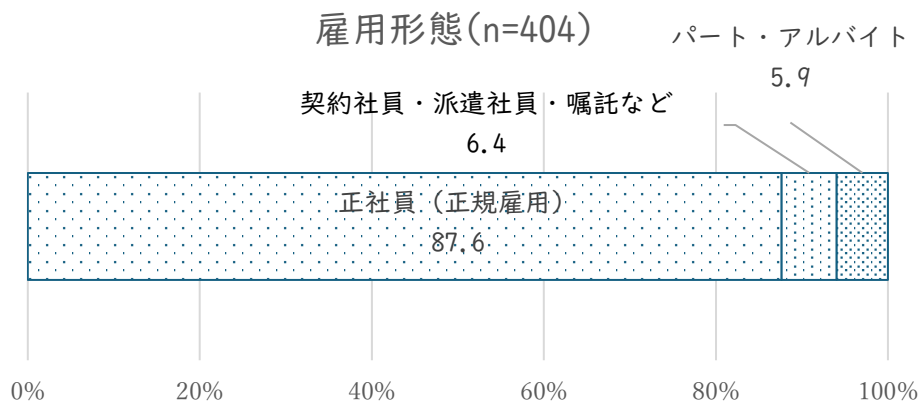


図 1-9 雇用形態

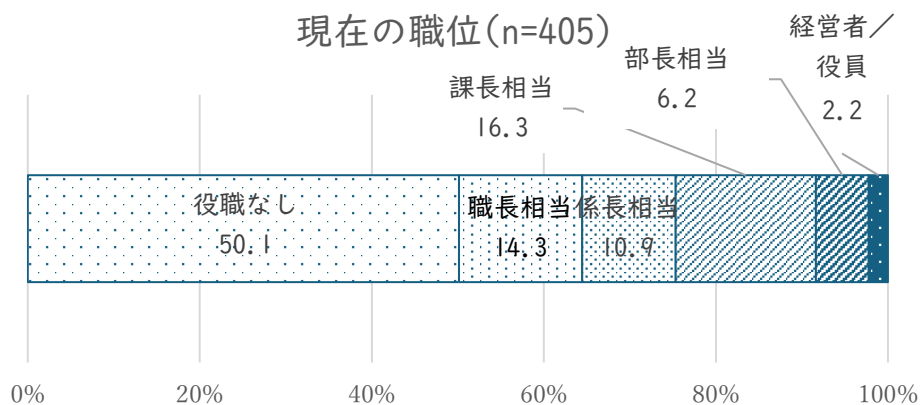


図 1-10 現在の職位

就業状況では、正社員（正規雇用）で働く人が9割近くにのぼり圧倒的に多く、契約社員やパート・アルバイトなどの非正規雇用の人は合わせて1割程度であった。

職位では、半数程度の人がとくに役職についていない。課長相当は16.3%、部長相当は6.2%となっており、あわせて管理職相当の人が22.5%と2割強にのぼった。また2%程度は経営者・役員であった。

表 1-10 勤務先の業種

	回答数	%
農林漁業	1	0.2
鉱業・建設業	1	0.2
製造業	269	66.6
電気・ガス・熱供給・水道業	52	12.9
卸売業、小売業	1	0.2
飲食業、宿泊業	4	1.0
金融業、保険業	9	2.2
新聞・放送・出版・広告業	21	5.2
情報・通信サービス業	45	11.1
教育・研究サービス業	1	0.2
合計	404	100.0

今回の調査では名張労務研究会の参加企業を中心としていることから、製造業が約3分の2を占める。ただし電気・ガス・水道や情報通信などを中心にサービス業も回答者の3割程度にのぼっている。

表 1-11 勤務先の規模

	回答数	%
5人未満	4	1.0
5-19人	8	2.0
20-99人	56	13.8
100-999人	309	76.1
1000人以上	29	7.1
合計	406	100.0

勤務先の規模では、100人から999人の規模の事業所に勤める人が4分の3ほどを占めた。これは今回の対象企業の多くが、このような従業員数の事業所だったことによる。

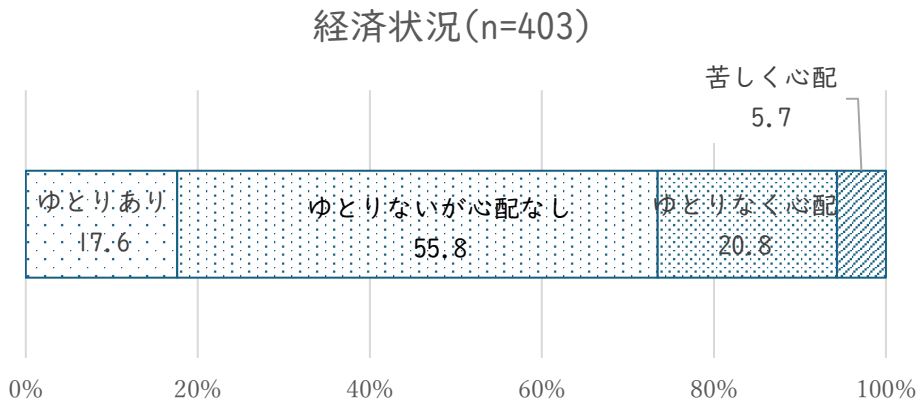


図 1-12 経済状況

最後に経済状況については、収入にゆとりがあり家計にまったく心配がないと答えた人が 17.6%と 2 割弱にのぼった。また半数程度の人、ゆとりはないが心配もないと答えた層であった。一方、ゆとりがなく家計に心配があると答えた人も 2 割程度おり、さらに 5.7%の人は生活が苦しく家計が心配であると回答している。

4. まとめと各章の構成

本章では調査の概要とともに回答者の属性を確認してきた。とくに今回の回答者は、製造業の男性従業員が中心となっているところに特徴がある。各章での分析結果は、この点に注意した解釈が必要である。

以下の各章では、第 2 章で地域のくらしやすさに関する質問を検討する。また第 3 章では仕事へのモチベーションや従業員へのエンゲージメントについて分析が行われ、続く第 4 章では仕事に対する職務満足が取り上げられる。第 5 章では、居住移動と空き家の関係に注目する。最後に第 6 章で、調査全体をふりかえったまとめを行う。

第2章 居住地への満足度

吉川和挟

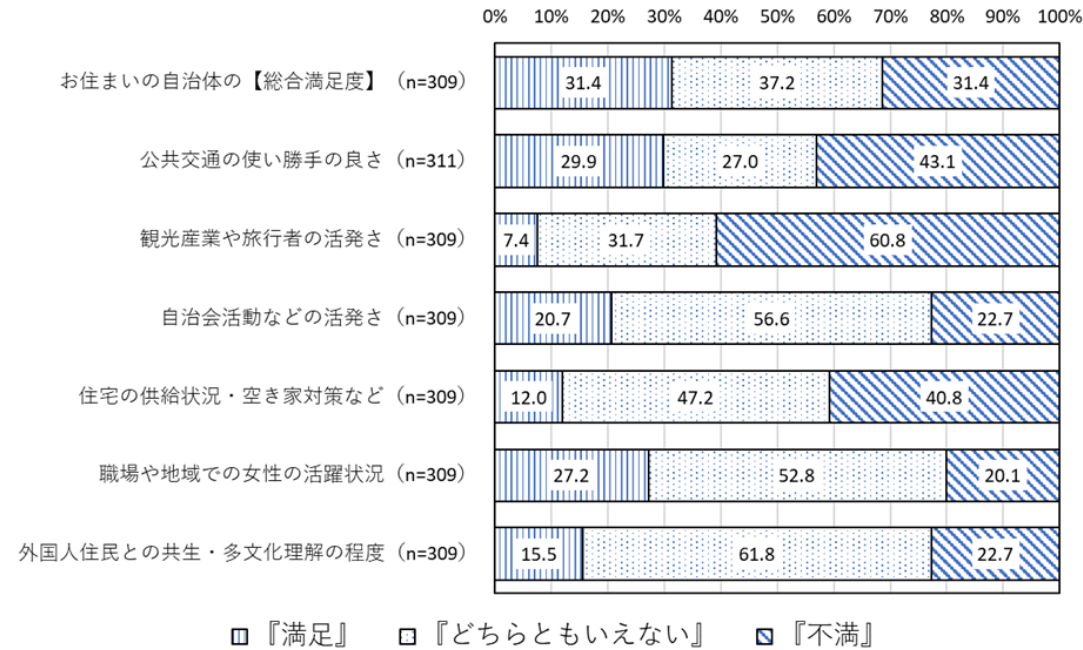
名張商工会議所所属企業で勤務する方に名張市の住みやすさと働きやすさについてアンケート調査を実施した、その調査結果が本報告書である。本章では上記アンケート結果のうち、特に名張市の居住面での満足度を訪ねた「問3 お住まいの自治体の満足度をお答えください」に焦点を当てて、名張市の状況を俯瞰してみたい。

なお、本章では分析に当たって「問1 現在のお住まいは名張市内ですか、それとも名張市外ですか」において「名張市外」と回答したもの（n=95）や、各項目の満足度、及びクロス集計に活用する属性を尋ねた設問に「無回答」であったものを除外して分析を行っているため、パーセンテージ等を計算する母数 n が分析によって異なっていることを付記しておく。

1. 満足度の全体像について

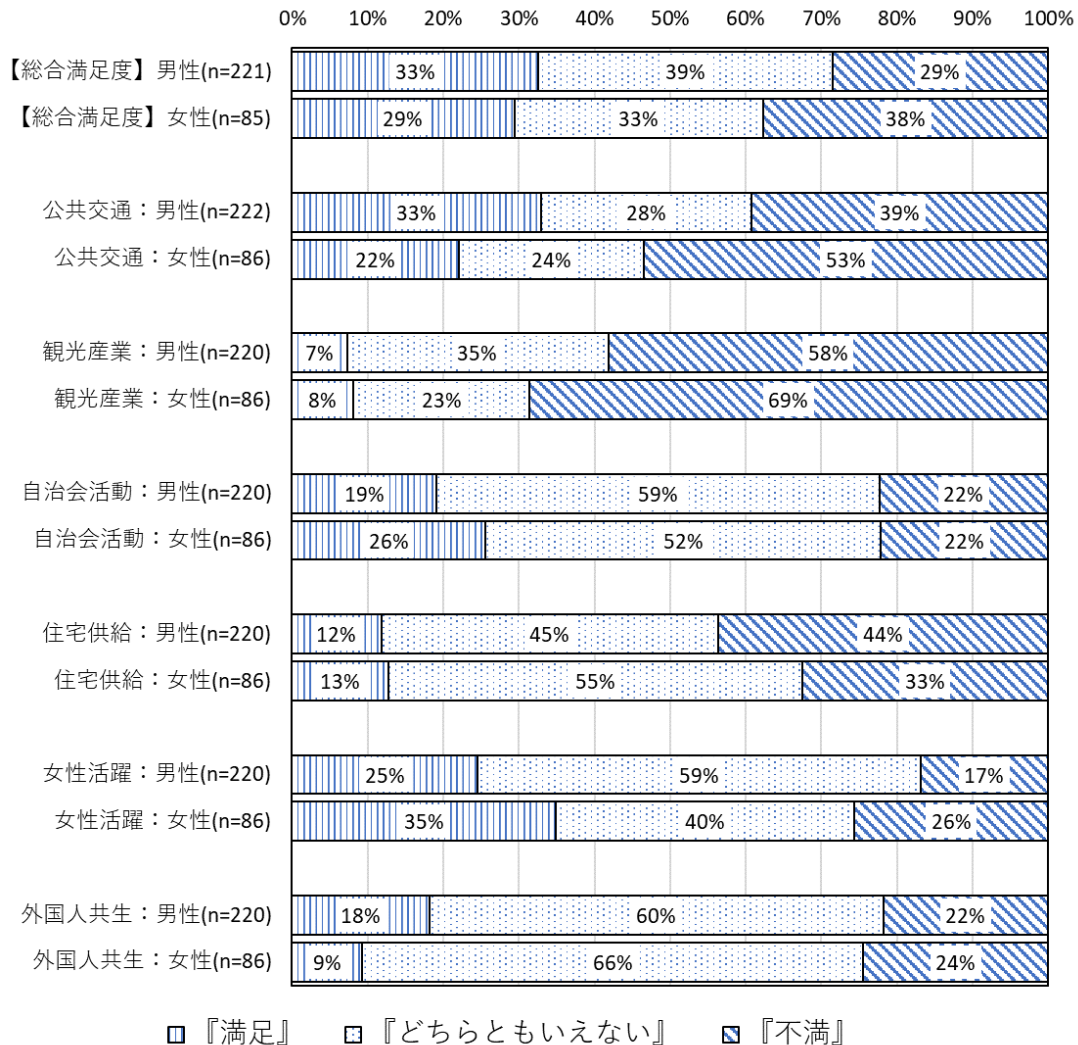
まず、名張市の居住環境満足度の全体像をつかむために、満足度を『満足』、『どちらともいえない』、『不満』の三段階に再編したうえで単純集計を行った（図1）。

図1 項目別満足度



次に上記同様の三段階で男女別のクロス集計を行った（図2）。

図2 男女別・項目別満足度



多くの項目で統計的に有意な差は見られなかったものの、特筆すべき点として、「公共交通の使い勝手の良さ」に『不満』と回答したのは男性では有意に少なく*、女性では有意に多かった*（以下、本文中の*は95%水準で有意、**は99%水準で有意）。男女間で公共交通を活用するシチュエーション（通勤、買い物、子ども連れでの外出の頻度など）に違いがあり、その結果、女性にとっては公共交通の使い勝手が悪いと感じられているのかもしれない。なお、「公共交通の使い勝手の良さ」と「子どもの有無」については、「子どもがいる」では『満足』が28.6%、「子どもがいない」では33.0%と、子どもがいない人の方が『満足』と回答した割合が高かったものの、統計的に有意な差はなかった。

また当然ではあるが、「職場や地域での女性の活躍状況」の設問でも男女差がみられ、『不満』と回答したのは男性で有意に少なかった*（同様に『どちらともいえない』は有意に多かった**）（図3）。今回の調査では、回答者が男性に偏っていたため、「女性の活躍」を主観的に評価することができないと感じ「どちらともいえない」に回答が流れた可能性はありうる。

属性別満足度の詳細については本章末の「図6 主要属性別・項目別満足度」及び「図7 主要属性別・総合満足度」を参照されたい。

図3 男女別「公共交通の使い勝手の良さ」「職場や地域での女性の活躍状況」

[3段階] 公共交通の使い勝手の良さ(n=311)

		『満足』	『どちらともいえない』	『不満』
男性	%	32.9	27.9	39.2
n=222	調整された標準化残差	1.812	0.576	-2.192
	p値	0.070	0.565	0.028
女性	%	22.1	24.4	53.5
n=86	調整された標準化残差	-1.860	-0.636	2.290
	p値	0.063	0.525	0.022
その他	%	33.3	33.3	33.3
n=3	調整された標準化残差	0.130	0.248	-0.343
	p値	0.896	0.804	0.732

[3段階] 職場や地域での女性の活躍状況(n=309)

		『満足』	『どちらともいえない』	『不満』
男性	%	24.5	58.6	16.8
n=220	調整された標準化残差	-1.639	3.258	-2.240
	p値	0.101	0.001	0.025
女性	%	34.9	39.5	25.6
n=86	調整された標準化残差	1.934	-2.811	1.541
	p値	0.053	0.005	0.123
その他	%	0.0	0.0	100.0
n=3	調整された標準化残差	-1.059	-1.827	3.488
	p値	0.290	0.068	0.000

2. 総合満足度に影響を与えるものについて

次に項目別に尋ねた満足度間の関係性についてみる。

調査で尋ねた「公共交通」、「観光」、「自治会活動」、「住宅」、「女性活躍」、「外国人共生」への満足度が「総合満足度」に与える影響を検討するために「総合満足度」を目的変数とする重回帰分析を行った（図4）。なお、分析に当たって「満足している」に5、「やや満足している」に4、「どちらともいえない」に3、「やや不満である」に2、「不満である」に1を割り当てた。

まず、目的変数（「総合満足度」）の変動のうち、説明変数（「公共交通」、「観光」、「自治会活動」、「住宅」、「女性活躍」、「外国人共生」）全体によって説明される割合を意味する寄与率（ R^2 値）は0.482 となり、今回調査した6項目によって「総合満足度」の変動の約5割が説明できる。残りの5割については今回調査項目に加えていない項目（例として「高齢者福祉」「医療の充実度」「教育」「子ども子育て」「物価」などが想定される）などによって説明されることとなる。

図4 総合満足度に対する各項目満足度の影響

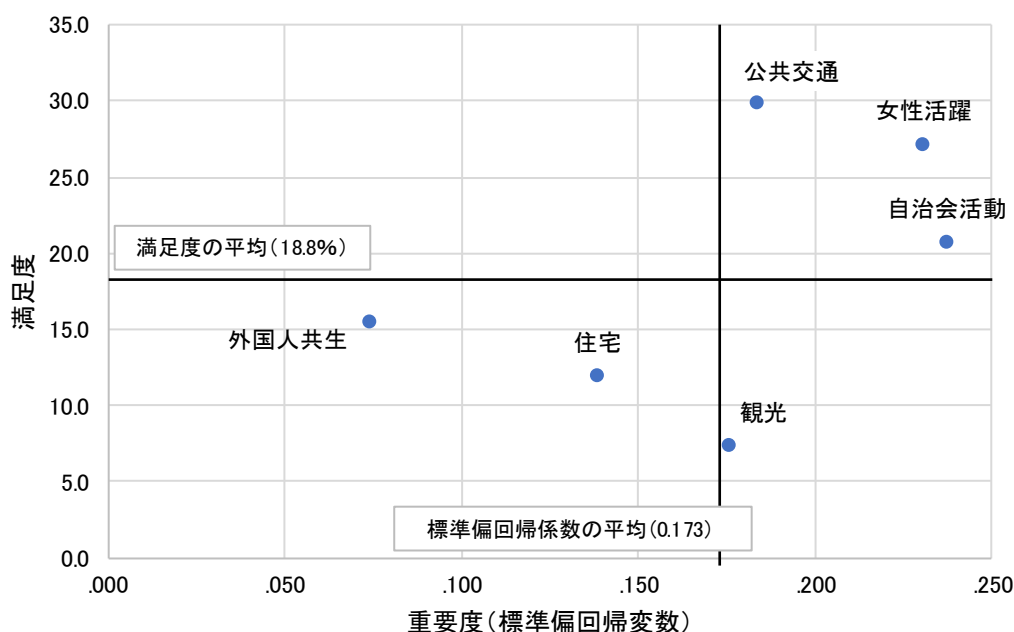
お住まいの自治体の【総合満足度】	標準偏回帰係数	VIF
公共交通の使い勝手の良さ	.183 **	1.277
観光産業や旅行者の活発さ	.175 **	1.530
自治会活動などの活発さ	.237 **	1.290
住宅の供給状況・空き家対策など	.138 **	1.307
職場や地域での女性の活躍状況	.230 **	1.440
外国人住民との共生・多文化理解の程度	.074	1.439
R^2	.482 **	

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

分析の結果、「外国人共生」を除く5項目に有意な影響がみられた（上図「標準偏回帰係数」＝各説明変数の重要性を表す指標）。「総合満足度」に与える影響力の強さは大きい順に「自治会活動」、「女性活躍」、「公共交通」、「観光」、「住宅」であった。

次に上記の分析から得られた標準偏回帰係数を横軸、各項目の『満足』の値を縦軸に設定し、ポートフォリオ分析を行った（図5）。下図は横軸が重要度（総合満足度への影響力）、縦軸が現状の各項目別満足度である。

図5 ポートフォリオ分析



上記の結果をみると、「観光」などは現状の満足度が低く、総合満足度への影響が比較的大きい項目であり、「観光」の満足度を改善することで総合満足度への貢献が期待できる（重点改善項目）。一方で「公共交通」、「女性活躍」、「自治会活動」などは現状の満足度が比較的高く、かつ、総合満足度への影響も大きく今後も重点的に維持していく必要がある項目（重点維持項目）であるといえる。

しかし、上記の分析結果はあくまで名張市内で勤務している「従業員」を対象とするアンケートであり、男女比などの側面でサンプル上の偏りがある調査結果に基づくものであるという点は認識されるべきである。特に「公共交通」や「女性活躍」については先に見たように男女間で統計的に有意な差がみられた項目でもあり、「名張市」全体への含意を導出するにあたっては注意を要する。

3. その他

上記の分析のほか、各項目の満足度について特筆すべき点を記述する。

3.1 公共交通の満足度

- ・「両親の居住地」が「30分以内で行ける」場合、『不満』の割合が有意に高く、「30分～1時間以内で行ける」場合、『満足』の割合が有意に高い。

3.2 観光の満足度

- ・「家族構成」が「夫婦のみの世帯（事実婚も含む）」の場合、有意に『満足』が高く、『不満』が低い、一方、「二世帯世帯（親と子）」の場合、『不満』が有意に高い。
「二世帯世帯（親と子）」は名張市内への居住歴が長いことが予想され、近年の旅行者の減少をより生活感覚として実感している可能性がある。
- ・「子どもの有無」で「子どもがいる」場合、『不満』が有意に高い。
「子どもがいない」場合、『不満』が有意に低い。

3.3 自治会活動の満足度

- ・「既婚状況」で「既婚」の場合、『満足』が有意に高い。
既婚者は自治会活動の恩恵を感じている一方、未婚者は恩恵を感じていない可能性がある。

3.4 住宅供給の満足度

- ・「年齢」で「20代」の場合、『不満』が有意に低く、「30代」は有意に高い。
30代ごろから「既婚」「子ども有」が増加することを考えると、ファミリー向け住宅の共有が少ない可能性がある。

3.5 女性活躍の満足度

- ・「年齢」で「40代」の場合、『満足』が有意に低い。
- ・「既婚状況」で「既婚」の場合、『不満』が有意に高い。

3.6 外国人共生の満足度

- ・「居住様式」が「戸建て（賃貸含む）」の場合、『満足』が有意に低い。
- ・「最終学歴」が「大学」の場合、『不満』が有意に高い。

3.7 【総合満足度】

- ・「年齢」が「20代」の場合、『満足』が有意に高く、「40代」は有意に低い。
- ・「子どもの有無」で「子どもがいる」場合、『不満』が有意に高い。

図6 主要属性別・項目別満足度

		公共交通の使い勝手の良さ				観光産業や旅行者の活発さ				自治会活動などの活発さ			
		回答者数 (人)	『満足』	『どちらとも いえない』	『不満』	回答者数 (人)	『満足』	『どちらとも いえない』	『不満』	回答者数 (人)	『満足』	『どちらとも いえない』	『不満』
性別	男性	222	32.9	27.9	39.2▼	220	7.3	34.5	58.2	220	19.1	58.6	22.3
	女性	86	22.1	24.4	53.5△	86	8.1	23.3	68.6	86	25.6	52.3	22.1
年齢	20歳未満	1	100.0	0.0	0.0	1	0.0	0.0	100.0	1	100.0△	0.0	0.0
	20～29歳	54	37.0	27.8	35.2	54	7.4	42.6	50.0	54	16.7	66.7	16.7
	30～39歳	49	30.6	30.6	38.8	49	8.2	30.6	61.2	48	12.5	60.4	27.1
	40～49歳	120	25.8	26.7	47.5	120	5.0	30.8	64.2	120	18.3	55.8	25.8
	50～59歳	66	27.3	24.2	48.5	64	7.8	31.3	60.9	65	23.1	52.3	24.6
	60～69歳	21	38.1	28.6	33.3	21	19.0△	14.3	66.7	21	52.4△	42.9	4.8▼
結婚の有無	未婚	76	28.9	32.9	38.2	76	5.3	44.7△	50.0▼	75	13.3	72.0△	14.7
	既婚	221	30.3	24.4	45.2	219	8.7	27.9▼	63.5	220	23.6△	51.4▼	25.0
	離別・死別	14	28.6	35.7	35.7	14	0.0	21.4	78.6	14	14.3	57.1	28.6
子どもの有無	いる	210	28.6	26.7	44.8	208	8.2	24.0▼	67.8△	209	24.4△	49.3▼	26.3△
	いない	100	33.0	28.0	39.0	100	6.0	47.0△	47.0▼	99	13.1▼	71.7△	15.2▼
経済的状況	家計にゆとりがあり、心配なく暮らしている	52	38.5	19.2	42.3	52	15.4△	26.9	57.7	52	30.8△	55.8	13.5
	家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている	171	28.7	26.9	44.4	170	5.9	30.6	63.5	170	20.0	57.1	22.9
	家計にゆとりがなく、多少心配である	69	29.0	31.9	39.1	68	2.9	39.7	57.4	68	13.2	58.8	27.9
	家計が苦しく、非常に心配である	18	22.2	33.3	44.4	18	16.7	22.2	61.1	18	27.8	44.4	27.8

		住宅の供給状況・空き家対策など				職場や地域での女性の活躍状況				外国人住民との共生・多文化理解の程度			
		回答者数 (人)	『満足』	『どちらとも いえない』	『不満』	回答者数 (人)	『満足』	『どちらとも いえない』	『不満』	回答者数 (人)	『満足』	『どちらとも いえない』	『不満』
性別	男性	220	11.8	44.5	43.6	220	24.5	58.6△	16.8▼	220	18.2△	60.0	21.8
	女性	86	12.8	54.7	32.6	86	34.9	39.5▼	25.6	86	9.3	66.3	24.4
年齢	20歳未満	1	0.0	100.0	0.0	1	100.0	0.0	0.0	1	0.0	100.0	0.0
	20～29歳	54	18.5	57.4	24.1▼	54	35.2	44.4	20.4	54	24.1	61.1	14.8
	30～39歳	49	6.1	38.8	55.1△	48	29.2	56.3	14.6	49	18.4	59.2	22.4
	40～49歳	119	9.2	46.2	44.5	120	18.3▼	59.2	22.5	119	11.8	62.2	26.1
	50～59歳	65	15.4	44.6	40.0	65	27.7	47.7	24.6	65	10.8	61.5	27.7
	60～69歳	21	14.3	52.4	33.3	21	47.6△	47.6	4.8	21	23.8	66.7	9.5
結婚の有無	未婚	75	12.0	54.7	33.3	76	32.9	53.9	13.2	76	22.4	63.2	14.5
	既婚	220	11.8	44.1	44.1	219	24.7	52.1	23.3△	219	13.2	60.3	26.5△
	離別・死別	14	14.3	57.1	28.6	14	35.7	57.1	7.1	14	14.3	78.6	7.1
子どもの有無	いる	209	12.9	44.5	42.6	208	24.5	52.9	22.6	208	13.0	62.5	24.5
	いない	99	10.1	52.5	37.4	100	33.0	52.0	15.0	100	21.0	60.0	19.0
経済的状況	家計にゆとりがあり、心配なく暮らしている	52	17.3	46.2	36.5	52	44.2△	44.2	11.5	52	19.2	65.4	15.4
	家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている	170	13.5	51.8	34.7▼	169	26.0	54.4	19.5	169	18.3	60.9	20.7
	家計にゆとりがなく、多少心配である	68	2.9▼	42.6	54.4△	69	18.8	55.1	26.1	69	7.2▼	62.3	30.4
	家計が苦しく、非常に心配である	18	16.7	22.2▼	61.1	18	22.2	50.0	27.8	18	11.1	55.6	33.3

(△は有意に多い、▼は有意に少ない)

図 7 主要属性別・総合満足度

		お住まいの自治体の【総合満足度】			
		回答者数 (人)	『満足』	『どちらとも いえない』	『不満』
性別	男性	221	32.6	38.9	29
	女性	85	29.4	32.9	37.6
年齢	20歳未満	1	100.0	0.0	0.0
	20～29歳	54	42.6△	31.5	25.9
	30～39歳	49	20.4	46.9	32.7
	40～49歳	120	23.3▼	39.2	37.5
	50～59歳	64	39.1	34.4	26.6
	60～69歳	21	47.6	28.6	23.8
結婚の有無	未婚	76	35.5	40.8	23.7
	既婚	219	30.6	34.2	35.2△
	離別・死別	14	21.4	64.3△	14.3
子どもの有無	いる	208	28.8	35.6	35.6△
	いない	100	37.0	40.0	23.0▼
経済的状況	家計にゆとりがあり、 心配なく暮らしている	52	36.5	38.5	25.0
	家計にあまりゆとりはないが、 それほど心配なく暮らしている	169	35.5	35.5	29.0
	家計にゆとりがなく、 多少心配である	69	21.7	39.1	39.1
	家計が苦しく、 非常に心配である	18	16.7	38.9	44.4

(△は有意に多い、▼は有意に少ない)

以上

第3章 働きがいとエンゲージメント

二村建也

1. 「働き続けたい職場に関するアンケート」(質問9～13)の結果について

本章では、職場に関する質問9～13の分析結果である。なお、質問10については別章での記載もある。

1.1 質問9の集計概要と考察

質問9の集計概要

質問9は結果を集計したのが次の図版1である。

図版1 質問9の集計結果

	ぴったり 当てはまる	どちらかとい えば 当てはまる	どちらとも いえない	どちらかとい えば 当てはまらな い	全く当ては まらない
仕事は生き がいにつな がる	5.9	42.4	28.8	15.5	7.4
仕事はお金 を得るため のものだ	37.9	53.0	6.9	2.2	0.0
勤務する曜 日・時間な どを柔軟に 調整できる	8.9	38.4	19.5	18.2	15.0
職場の人間 関係やコミ ュニケーシ ョンは良好 である	10.8	53.0	24.1	8.6	3.4
職場の賃金 (給与・賞 与)や福利 厚生に満足	4.7	35.7	25.1	22.2	12.3

している					
職場に対して不満がある	9.9	25.6	36.0	21.2	7.4

質問9 小問1「仕事は生きがいにつながる」に関して

「ぴったり当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合計すると 48.4%と、半数弱が肯定している。しかし、質問9 内の 6 問中「どちらともいえない」がやや多い 28.8%となっている。「全く当てはまらない」よりも「ぴったりと当てはまる」がわずかに上回っている。

この質問は大阪大学による「くらしの好みと満足度についてのアンケート」(2024 年 1～2 月実施。全国の 20～69 歳の男女個人 2,769 人が回答。以下「阪大アンケート」とする)と同じ内容の質問である。阪大アンケートでのこの質問の回答は「ぴったり当てはまる」から順に、3.9%、13.6%、24.9%、33.3%、24.3%という結果である。阪大アンケートは働いていない人も調査対象であるため、名張市内の事業所で働いている人を対象にした本調査とは、「どちらかといえば当てはまらない」「全く当てはまらない」といった否定的な回答の割合で差がついていると考えられる。

質問9 小問2「仕事はお金を得るためのものだ」に関して

「ぴったり当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合計した 90.9%が肯定している。質問9 内の 6 問中「どちらともいえない」が特に少ない。

この質問も阪大アンケートと同じ内容である。阪大アンケートでのこの質問の回答は「ぴったり当てはまる」から順に、9.7%、38.3%、33.4%、12.7%、5.8%という結果である。前の質問と同様に、働いていない人も調査対象の阪大データと働いている人のみを対象にした本調査で差がついていると考えられる。

質問9 小問3「仕事はお金を得るためのものだ」に関して

「ぴったり当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計である 47.3%にとっては、ある程度、勤務日・時間を自分の都合などに合わせてられていると考えられる。ただ、「ぴったり当てはまる」は 8.9%と、「どちらかといえば当てはまる」の 38.4%に比べて少ない。また「どちらかといえば当てはまらない」「全く当てはまらない」の合計 33.2%、つまり 3 人に 1 人は程度の差はあるものの、勤務日・時間が柔軟に調整できないと感じていると解釈できる。

質問9 小問4「職場の人間関係やコミュニケーションは良好である」に関して

「どちらかといえば当てはまらない」「全く当てはまらない」の合計は 12.0%と他の質問とくらべて低い。良好だと感じていなければ、すでに職場を変えているとも予想され

る。各事業所の従業員間の良好な人間関係やコミュニケーションは回答者にとって、ハーズバーグの動機付け・衛生理論でいうところの衛生要因、つまりモチベーションや満足感を高めるわけではないが、不足していると（ここでは、人間関係やコミュニケーションが良好でないと）不満をもたらすことになる要因なのかもしれない。

質問9 小問5「職場の賃金（給与・賞与）や福利厚生に満足している」に関して

「ぴったり当てはまる」は4.7%と、質問9の小問のなかで最も少ない。「どちらかといえば当てはまらない」「全く当てはまらない」の合計は34.5%と3人に1人以上が満足していないことを示している。これらは、他の調査で同じ質問をしてもおそらく、同様の結果が出ると予想される。他の質問（たとえば、現在の暮らし向きに関する質問27）と関連づけて分析すると満足・不満に関する何らかの傾向が見つかるかもしれない。

質問9 小問6「職場に対して不満がある」に関して」に関して

質問9のなかで「どちらともいえない」が最も多い36.0%。職場に対する明確なはっきりとした不満があるわけではないものの、不満がないともいえない意思表示なのかもしれない。また、「ぴったり当てはまる」と「全く当てはまらない」という両極の回答が少なく、質問9のなかでは中心化傾向が最も強く出ていると言える。

1.2 質問11の集計概要と考察

質問11の集計概要

17の選択肢（「その他」を含む）から該当するものを4つまで選んでもらった質問である。回答の多い順に整理すると次のとおりである。（ ）内の数値は該当するとして選択された数と、すべての回答数1226に対するパーセンテージである。

- ・ 転職には手間や時間がかかるから（162。13.2%）
- ・ 便利な立地だから（154。12.6%）
- ・ 他にいい仕事がないから（151。12.3%）
- ・ 賃金（給与・賞与）や福利厚生がいいから（119。9.7%）
- ・ 職場の人間関係やコミュニケーションが良好だから（101。8.2%）
- ・ 仕事の内容が自分の興味のあることだから（83。6.8%）
- ・ 勤務する曜日・時間などを柔軟に調整できるから（82。6.7%）
- ・ 自分の得意なことや専門性を発揮できる仕事だから（80。6.5%）
- ・ 倒産や閉鎖などの不安が少ないから（71。5.8%）
- ・ 職場のなかで信頼され、責任を与えられていると感じるから（71。5.8%）
- ・ 仕事の達成感を感じられるから（51。4.2%）
- ・ 自分が将来、成長できそうだから（29。2.4%）

- 楽な仕事だから (23。1.9%)
- 上司がいい指導をしてくれるから (23。1.9%)
- 職場の理念や目指していることに共感できるから (7。0.6%)
- 表彰されるなど、賃金以外でも自分が承認されていると感じるから (4。0.3%)
- その他 (15。1.2%)

質問 11 の考察

分析結果からは、今の職場を立地以外の点で積極的に選んでいる方は少ないということが見えてくる。そうした現実を踏まえ、今の職場を積極的に選ぶ方を増やす方策としては、賃上げを除くと、職場のコミュニケーションの活性化、各人の興味・スキル・専門性にあった業務の割り当て、柔軟に勤務日・時間を選択できる仕組みの整備、倒産や閉鎖のリスクが小さいことを示す経営状況・方針の積極開示などが考えられる。逆に、手間や時間のかからない転職が可能になり、便利な立地でいい仕事があったなら、回答者の一部は今の職場を去っていくかもしれないとも考えられる。岐阜県多治見市のアマゾンフルフィルメントセンターはそうした想定が現実となった例と言ってよいだろう。

1.3 質問 12 の集計概要と考察

質問 12 の集計概要と考察

これからの勤続意向年数を質問しているが、回答者の 26.4%が「わからない」と解答している点は評価するのが難しい。というのは、この質問は回答者の年齢によって回答が大きく異なると考えられるためである。本人や家族の健康状態やライフイベント（結婚・出産・進学など）といった不確定要素により、勤続意向は当然変わるであろう。質問 11 では、今の職場を必ずしも積極的には選んでいないように思われるが、この質問 12 では 36.7%が今の職場でこれから 10 年よりも長い期間働くつもりだと答えている。解釈が難しいが、質問 11 では理想や願望にウェイトを置き、質問 12 では現実にウェイトを置いて回答したのかもしれない。

「1 年未満」が 2.7% (11 名)、「1～5 年未満」が 16.6% (67 名)、「5～10 年未満」が 17.8% (72 名) と、勤続意向が 10 年未満の回答が 37.1%にのぼる。質問 14 では 352 名の回答者 (87.1%) が正社員（正規雇用）だと回答していることや、質問 20 で 283 名の回答者 (70.0%) が自身の年齢を 49 歳未満と回答していることを踏まえると、質問 12 での回答はやや意外な印象を受ける。定年が近い回答者ならば勤続意向が短くなるのは理解できるが、これらの結果からは、必ずしも定年に近くない正規雇用の回答者の一部でも勤続意向年数が短いと考えられる。

1.4 質問 13 の集計概要と考察

質問 13 の集計概要と考察

親しい知人や友人に対して、今の職場で働くことをすすめたいかを質問する質問 13 では、「まったくすすめない」を 0、「強くすすめたい」を 10 とする、11 段階で回答してもらっている。無回答を除いた 405 名の平均は 4.14、中央値と最頻値はともに 5 であった。回答の分布は次の図版 2 とおりである。

図版 2

回答	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
回答数	43	17	45	68	26	105	25	39	25	5	7

非推奨（すすめない）とする回答がやや多い傾向が見られるが、著しく偏っているとは言えないだろう。ただ、2 以下の回答が 25.9% に対し、8 以上の回答が 9.1% と少ない印象はある。

1.5 質問 9・10・12 の関連に関して

質問 9・10・12 の関連に関して

これからの勤続意向年数を質問している質問 12 の回答が質問 9 と質問 10 の各小問、および質問 20（年代の質問）どのような関連性があるのか重回帰分析をした。なお、分析にあたって以下のように変数化した。また、質問 12 と質問 20 の無回答は、分析対象から除外し、分析対象は 299 回答である。

- 質問 9 の 6 つの各小問で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」を 1、それ以外を 0 としてそれぞれ変数化
- 質問 10 の 12 つの各小問で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」を 1、それ以外を 0 としてそれぞれ変数化
- 質問 12 で、「1 年未満」を 0.5 年、「1-5 年」を 3 年、「5-10 年」を 7.5 年、「10-20 年」を 15 年、「20-30 年」を 25 年、「30-40 年」を 35 年、「40 年以上」を 45 年と、それぞれ変数化
- 質問 20 で、「20 歳未満」を 18 歳、「20-29 歳」を 25 歳、「30-39 歳」を 35 歳、「40-49 歳」を 45 歳、「50-59 歳」を 55 歳、「60-69 歳」を 65 歳、「70 歳以上」を 75 歳と、それぞれ変数化

質問 12 の勤続意向年数が、質問 9 の 6 つの小問によって決定されるかどうか検証するためのモデルを分析したところ、いずれの小問も（プラスにもマイナスにも）関連がある

とは言えない、といった分析結果が得られた。

次に、質問 12 の勤続意向年数が、質問 10 の 12 つの小問によって決定されるかどうか検証するためのモデルを分析したところ、以下の 2 つの小問が勤続意向年数と関連しているという分析結果が得られた。

- 小問 9「職場の同僚は、質の高い仕事をするよう真剣に取り組んでいる」で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答していると、統計的有意（5%水準）に勤続意向年数が約 3.06 年短くなる
- 小問 12「この 1 年間、私は職場で学び、成長する機会に恵まれた」で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答していると、統計的有意（10%水準）に勤続意向年数が約 2.93 年長くなる

質問 10 の他の小問は勤続意向年数とは統計的に（プラスにもマイナスにも）関連があるとは言えない、という分析結果であった。

そして、質問 9 の 6 つの小問と質問 10 の 12 つの小問によって決定されるかどうか検証するためのモデルを分析したところ、以下の 2 つの小問が勤続意向年数と関連しているという分析結果が得られた。

- 質問 10 小問 9「職場の同僚は、質の高い仕事をするよう真剣に取り組んでいる」で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答していると、統計的有意（5%水準）に勤続意向年数が約 3.20 年短くなる
- 質問 10 小問 12「この 1 年間、私は職場で学び、成長する機会に恵まれた」に「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答していると、統計的有意（10%水準）に勤続意向年数が約 2.79 年長くなる

質問 9 と質問 10 の他の小問は勤続意向年数とは統計的に（プラスにもマイナスにも）関連があるとは言えない、という分析結果であった。なお、年齢については、1 歳、歳を重ねると勤続意向年数が約 0.29 年短くなる（0.1%水準）。

以上の分析結果からは、勤続意向年数を長くするためには、学び成長する機会に恵まれた職場を目指しつつ、同僚には質の高い仕事をするよう真剣に取り組ませないことが効果的という解釈になる。同僚が質の高い仕事をするよう真剣に取り組むことが、勤続意向年数を短くする要因であることの論理的な解釈は難しい。同僚が真剣に仕事に取り組むことが本人にとってはプレッシャーとなり、勤続意向年数が短くなるのかもしれないし、他の要因（たとえば人事評価制度）と関連しているかもしれない。

1.6 質問 9・10・13 の関連に関して

質問 9・10・13 の関連に関して

親しい知人や友人に現在の職場で働くことの推奨度合いを質問している質問 13 の回答が質問 9 と質問 10 の各小問、および質問 20（年代の質問）どのような関連性があるのか

重回帰分析をした。なお、分析にあたって先と同様の変数化をした。また、質問 13 と質問 20 の無回答は分析対象から除外した。分析対象は 405 回答である。

まず、質問 13 の推奨度合いが、質問 9 の 6 つの小問によって決定されるかどうか検証するためのモデルを分析したところ、以下の 3 つの小問が推奨度合いに関連しているという分析結果が得られた。

- 質問 9 小問 1「仕事は生きがいにつながる」で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答していると、統計的有意（5%水準）に推奨度合いが約 1.16 段階上がる
- 質問 9 小問 4「職場の人間関係やコミュニケーションは良好である」で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答していると、統計的有意（5%水準）に推奨度合いが約 1.41 段階上がる
- 質問 9 小問 6「職場に対して不満がある」で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答していると、統計的有意（1%水準）に推奨度合いが約 1.72 段階下がる

次に、質問 13 の推奨度合いが、質問 10 の 12 つの小問によって決定されるかどうか検証するためのモデルを分析したところ、以下の 4 つの小問が推奨度合いに関連しているという分析結果が得られた。

- 質問 10 小問 2「きちんと仕事をするために必要な材料や設備がそろっている」で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答していると、統計的有意（10%水準）に推奨度合いが約 1.15 段階上がる
- 質問 10 小問 3「職場では、毎日自分の得意なことをする機会がある」で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答していると、統計的有意（5%水準）に推奨度合いが約 1.28 段階上がる
- 質問 10 小問 6「職場には私の成長を促してくれる人がいる」で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答していると、統計的有意（10%水準）に推奨度合いが約 1.28 段階上がる
- 質問 10 小問 8「会社の使命や目的は、仕事を重要だと感じさせてくれる」で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答していると、統計的有意（10%水準）に推奨度合いが約 1.64 段階上がる

そして、質問 13 の推奨度合いが、質問 9 の 6 つの小問と質問 10 の 12 つの小問によって決定されるかどうか検証するためのモデルを分析したところ、以下の 5 つの小問が推奨度合いに関連しているという分析結果が得られた。

- 質問 9 小問 4「職場の人間関係やコミュニケーションは良好である」で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答していると、統計的有意（10%水準）に推奨度合いが約 1.15 段階上がる
- 質問 9 小問 6「職場に対して不満がある」で「ぴったり当てはまる」または「ど

らかといえは当てはまる」と回答していると、統計的有意（5%水準）に推奨度合いが約 1.47 段階下がる

- 質問 10 小問 3「職場では、毎日自分の得意なことをする機会がある」で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえは当てはまる」と回答していると、統計的有意（5%水準）に推奨度合いが約 1.20 段階上がる
- 質問 10 小問 7「職場で自分の意見は重視されている」で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえは当てはまる」と回答していると、統計的有意（10%水準）に推奨度合いが約 1.20 段階下がる
- 質問 10 小問 8「会社の使命や目的は、仕事を重要だと感じさせてくれる」で「ぴったり当てはまる」または「どちらかといえは当てはまる」と回答していると、統計的有意（5%水準）に推奨度合いが約 1.40 段階上がる

以上の分析結果からは、生きがいにつながると感じてもらえる仕事を割り当て、人間関係やコミュニケーションを良好にし、きちんと仕事をするための材料・設備を整え、各人の得意なことをする機会を用意し、仕事を重要だと感じさせる会社の使命や目的を説くことなどが推奨度合いを高める可能性が考えられる。その一方で、職場に対する不満（その原因はこの質問項目からはわからない）がある場合や、職場で自分の意見が重視されていると感じると、推奨度合いが低下する可能性が考えられる。自分の意見が重視されることがストレス要因につながっているのかもしれない。

第 4 章 職務満足と不満足 —Herzberg の視点から—

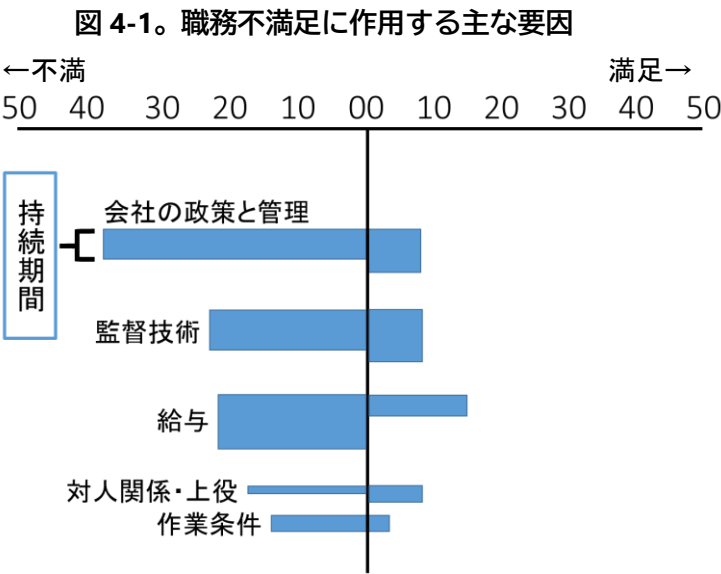
川崎 綾子

1. はじめに

本研究では、名張市内の事業所で働く方々を対象として、居住地域の暮らしやすさと職場の働きやすさを尋ねる web 調査結果の分析を行った。本章では職務満足と不満足に作用する要因を分析した代表的な先行研究の視点から、データ分析の結果を考察する。

2. 先行研究

関連する代表的な研究として、Herzberg(1966) がある。同研究の図 4-1 の横軸は、中央の 00 を起点として、左に向かうほど不満度が強いことを示す。たとえば「会社の政策と管理」が悪かった場合には、強い不満を抱きやすいと解釈できる。グラフの各項目の厚みは、不満や満足の持続期間を表している。

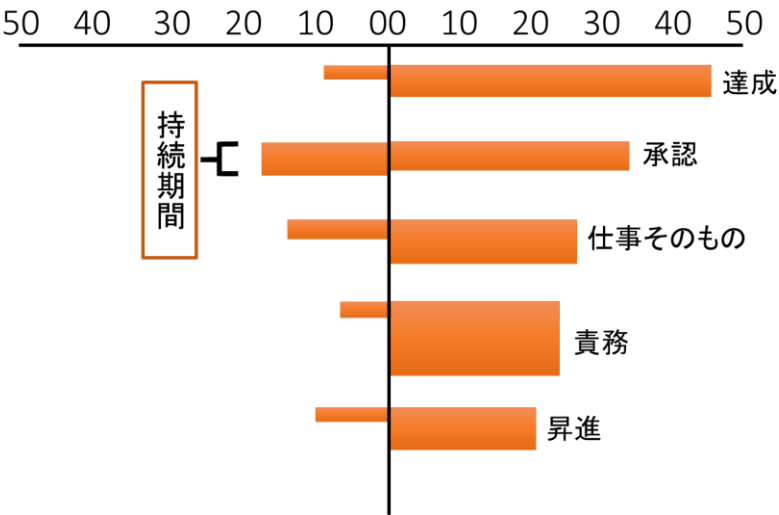


出典：Herzberg (1966) を一部、加筆修正

図 4-1 のように①会社の政策と管理、②監督技術、③給与、④対人関係・上役（上役との関係）、⑤作業条件が悪かった場合は、職務不満足につながりうる。たとえば「給与」は上図の横軸の 00 から右方向にもグラフが伸びていることから、給与が良かった場合には「満足」の原因になりうるが、持続期間は給与が悪かった場合の「不満」よりも短い。

一方、図 4-2 は職務満足に作用する主な要因を示している。Herzberg（1966）によれば①達成（達成感）、②自分を認めてもらえること（承認）、③仕事そのもの、③仕事を任されること（責務）、④昇進は満足に作用しやすい。

図 4-2。職務満足に作用する主な要因



出典：Herzberg（1966）を一部、加筆修正

3. データ分析と考察

本研究では、名張市内の事業所で働く方々を対象として、居住する地域の暮らしやすさと職場の働きやすさを尋ねる web 調査結果の分析を行った。本章では、下記の 13 の質問項目の中で相関が高い 2 変数を探索する。また本節ではデータ分析の結果と、先述の Herzberg（1966）との整合性を探る。

表 4-1。分析項目

v12_6	不満	職場に対して不満がある
v13_1	期待	職場で自分に何が期待されているか分かっている
v13_2	材料	きちんと仕事をするために必要な材料や設備がそろっている
v13_3	得意	職場では、毎日自分の得意なことをする機会がある

v13_4	承認	最近7日間に、良い仕事をしたことを認められたり、褒められたりしたことがある
v13_5	人間	上司や同僚のなかに、自分を一人の人間として気にかけてくれる人がいる
v13_6	成長促進	職場には私の成長を促してくれる人がいる
v13_7	意見	職場で自分の意見は重視されている
v13_8	使命	会社の使命や目的は、仕事を重要だと感じさせてくれる
v13_9	質	職場の同僚は、質の高い仕事をするよう真剣に取り組んでいる
v13_10	親友	職場に親友と呼べる人がいる
v13_11	成長具合	この半年の間に、職場で私の成長具合について話してくれた人がいる
v13_12	成長機会	この1年間、私は職場で学び、成長する機会に恵まれた

下の表4-2は「職場に対して不満がある(v12_6 不満)」と、各項目(変数)間の相関を分析したものである。特に目立った値が見受けられたのは「きちんと仕事をするために必要な材料や設備がそろっている(v13-2 材料)」である。2変数の間には負の相関が見受けられた。したがって仕事に必要な材料や設備が揃っていると、職務不満度が下がると解釈できる。これは作業条件が悪いと、職務不満足につながりやすいという Herzberg (1966) の主張とほぼ整合していると解釈できる。

表4-2。不満(v12-6)と各変数間の相関度

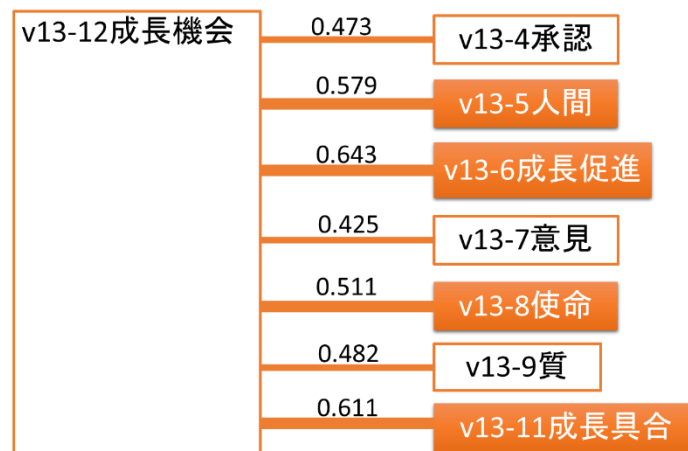
2変数の相関		相関度	
v12_6 不満	v13-1 期待	-0.228	弱い負の相関
	v13-2 材料	-0.435	負の相関
	v13-3 得意	-0.298	弱い負の相関

	v13-4 承認	-0.229	弱い負の相関
	v13-5 人間	-0.325	弱い負の相関
	v13-6 成長促進	-0.297	弱い負の相関
	v13-7 意見	-0.234	弱い負の相関
	v13-8 使命	-0.331	弱い負の相関
	v13-9 質	-0.304	弱い負の相関
	v13-10 親友	-0.122	相関がない
	v13-11 成長具合	-0.297	弱い負の相関
	v13-12 成長機会	-0.291	弱い負の相関

他の項目に関しては、あまり相関がみられなかった。中でも「職場に親友と呼べる人がいる (v13-10)」と「職場に対して不満がある (v12_6 不満)」の間には相関がないことが判明した。一方、図 4-3 は比較的高い相関の見受けられた変数の一覧である。v13-12 成長機会「この 1 年間、私は職場で学び、成長する機会に恵まれた」と、高い相関のみられた変数は、次の 7 変数であった。

- ① v13-4 承認「最近 7 日間に、良い仕事をしたことを認められたり、褒められたりしたことがある」、
- ② v13-5 人間「上司や同僚のなかに、自分を一人の人間として気にかけてくれる人がいる」
- ③ v13-6 成長促進「職場には私の成長を促してくれる人がいる」
- ④ v13-7 意見「職場で自分の意見は重視されている」
- ⑤ v13-8 使命「会社の使命や目的は、仕事を重要だと感じさせてくれる」
- ⑥ v13-9 質「職場の同僚は、質の高い仕事をするよう真剣に取り組んでいる」
- ⑦ v13-11 成長具合「この半年の間に、職場で私の成長具合について話してくれた人がいる」

図 4-3。相関の高い2変数



注：中央の数値は相関係数の値。

v13-12 成長機会「この1年間、私は職場で学び、成長する機会に恵まれた」という変数は、先述の Herzberg(1966)が職務満足に作用する主要因として挙げた「達成」や「仕事そのもの」、「昇進」に関連する項目であるといえる。データ分析の結果より、成長機会に恵まれたと感じている人は「最近7日間に、良い仕事をしたことを認められたり、褒められたりしたことがある」といえる。これは Herzberg(1966)が職務満足に作用する主要因として挙げた「承認」に相当するものと解釈できる。

また「上司や同僚のなかに、自分を一人の人間として気にかけてくれる人がいる」と考えている人や「職場には私の成長を促してくれる人がいる」と思っている人は、成長機会に恵まれたと感じる傾向にあるといえる。よって人、中でも上役の存在が重要であるといえる。Herzberg(1966)は「職務不満足」に作用する要因として、上役との関係を挙げていた。しかしデータ分析の結果から、上役との関係（が良いこと）は「職務満足」にとっても重要な要因となりうることが示唆された。

Herzberg(1966)を踏まえると「成長機会の実感」は職務満足に作用する要因（「達成」、「仕事そのもの」）と関連が深い項目であるといえる。よって「成長機会」が実感できるような職場づくりは、従業員の職務満足の向上にとって重要である。データ分析の結果から、本人を気にかけて成長させてくれる人、中でも上役の存在が「成長機会の実感」にとって重要な要因であることが示された。また「会社の使命や目的は、仕事を重要だと感じさせてくれる」、「職場の同僚は、質の高い仕事をするよう真剣に取り組んでいる」と考えている人も、成長機会を実感している。これらの2項目は職務満足に作用しやすい要因とされる「仕事そのもの」(Herzberg 1966)に関連が深い項目である。

参考文献

Herzberg, F. (1966) *Work and the Nature of Man*, World Press (北野 利信訳『仕事と人間性—動機づけ—衛生理論の新展開』東洋経済新報社, 1968)

第5章 居住移動と空き家

三田泰雅

1. はじめに

本章では、人々の居住と空き家の関係を取りあげる。空き家の問題は、建物や土地などモノに注目してとらえられることが多いが、ここでは、かつてそこに住んでいた「人」に注目して空き家の問題を考えたい。

空き家については、持ち主と連絡が取りにくかったり、そもそも持ち主にたどりつけなかったりすることが多いといわれる。しかし現在空き家となっている家も、以前は誰かが暮らしていたはずである。そこに住んでいた人は、今どこで何をしているのだろうか。すでに他界していることもあるだろうが、現在は別のところで生活していることも少なくないように思われる。

本章で扱うのは、空き家の持ち主はどこにいるのかという問題である。そしてそれを通して、空き家はどのようにして空き家になってしまったのかを探ってみたい。

2. 方法

この問題を考えるにあたって本章では、年齢、親との距離、婚姻状態などの基本的属性のほか、現在の住まいが名張市かどうか、実家はどこか、実家は現在どうなっているか、の3つの質問項目を用いる。

現在の住まいについては「名張市内」と「名張市外」のいずれかから選んでもらった。市外在住の場合は現在住んでいる市町村も回答してもらっている。ただし本章の関心を超えるため分析では触れなかった。

次の実家については若干の操作が必要になる。実家という言葉は多様なとらえ方が可能なので、そのままたずねても人によって違った意味になりうる。親の仕事の都合で何度も転居した場合などは、回答に迷うこともあるだろう。このとき、10代を過ごした地域を「態度決定地」あるいは「態度決定の地域社会」(Lipset 1955=1965)と呼んで出身地に代えることがある。これにならって中学3年生の時に居住していたところを実家に代わる存在と扱うことにし、「あなたが中学3年生になったとき、住んでいたところはどこですか」という質問を設け、1:現在と同じところ、2:同じ市町村内、3:別の市町村(国外含む)の三つの選択肢から選んでもらった。分析にあたっては、それぞれ「現住地」「市内転住」「市外来住」として分類している。

また同じく実家の現況についても、中学校3年生時に居住していたところの現在の様子をたずねている。1:親きょうだいやおい・めいなど、親族が住んでいる(建て替わっ

ている場合も含む)を「親族居住」、2:別の誰かが住んでいる(建て替わっている場合も含む)を「他者居住」、3:店舗や事業所、駐車場などになっているを「非住居利用」、4:誰も住んでおらず、空き家になっているを「空き家」、5:誰も住んでおらず、更地や空き地になっているを「空き地」、6:わからないを「不明」として分類した。

さらに単純化するため、多変量解析では「親族居住」「他者居住」など居住者がいれば「非空き家」、空き家や空き地になっている場合を「空き家」として二分類にまとめて分析も行っている¹。

3. 結果

3.1 居住と実家の状況

表 5-1 現在の住まい

	度数	%
1 名張市内	311	76.6
2 名張市外	95	23.4
合計	406	100.0

表 5-2 中学卒業時の居住地

	度数	%
1 現住地	140	34.5
2 市内転住(同じ市町村内)	81	20.0
3 市外来住(別の市町村)	185	45.6
合計	406	100.0

表 5-3 中学卒業時居住地の現況

	度数	%
1 親きょうだいやおい・めいなど、親族が住んでいる(建て替わっている場合も含む)	338	83.3
2 別の誰かが住んでいる(建て替わっている場合も含む)	33	8.1
3 誰も住んでおらず、事業所や店舗、駐車場になっている	0	0.0
4 誰も住んでおらず、空き家になっている	16	3.9
5 誰も住んでおらず、更地や空き地になっている	4	1.0
6 わからない	15	3.7
合計	406	100.0

¹ クロス表分析や多変量解析では「不明」のケースは除いて分析した。

今回の調査では、市内在住者と市外在住者の割合はおおよそ3:1という結果であった。そして移動経験については、現住地にずっと住んでいる人が34.5%、同じ市町村内で移動した市内転住者が20.0%、国外を含む別の市町村から移ってきた市外来住者が45.6%であった。

また実家の現況では、本人を含む親族が今も住んでいるケースが圧倒的に多く、8割以上は親族居住のままであった。そして別の誰かが住んでいるケースが8.1%ある。店舗や事業所など非住居に転用されているケースはなかった。空き家や空き地になっているケースは、あわせて4.9%であった。言い方を変えると、「実家」が空き家になっている人は約5%いることになる。なお現況がわからないケースも3.7%あった。

3.2 移動履歴と実家の状況

表 5-4 現在の居住地と実家の現況

	親族居住	他者居住	空き家	空き地	不明	全体
名張市内	257(82.6%)	26(8.4%)	12(3.9%)	4(1.3%)	12(3.9%)	311(100%)
名張市外	81(85.3%)	7(7.4%)	4(4.2%)	0(0.0%)	3(3.2%)	95(100%)
全体	338(83.3%)	33(8.1%)	16(3.9%)	4(1.0%)	15(3.7%)	406(100%)

n.s.

表 5-5 移動履歴と実家の現況

	親族居住	他者居住	空き家	空き地	不明	全体
現住地	140(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	140(100%)
市内転住	55(67.9%)	11(13.6%)	12(14.8%)	1(1.2%)	2(2.5%)	81(100%)
市外来住	143(77.3%)	22(11.9%)	4(2.2%)	3(1.6%)	13(7%)	185(100%)
全体	338(83.3%)	33(8.1%)	16(3.9%)	4(1%)	15(3.7%)	406(100%)

$p < 0.001$

人々の居住地や移動履歴と空き家の関係を確認してみよう。現在の居住地と実家の現況を比較してみると、現在住んでいるところが名張市内でも市外でも、実家の現況には大きな違いはない。これに対して移動履歴と実家の利用状況との間には関係があるようだ。

市内で移動した転住者は、実家が空き家になっている人が14.8%いる。これに対して市外から移動してきた来住者で実家が空き家になっている人は2.2%にすぎず、統計的にも有意な差がある。

4. 属性と空き家

市内で移動した転住者のほうが、市外からやってきた来住者に比べて、実家が空き家になっている人が多いのはどういうわけだろう。この点を考える前に、他の属性と空き家の発生を検討してみたい。

表 5-6 本人年齢と親との距離

	同居／敷 地内	30 分以内	60 分以内	120 分以 内	120 分以 上	いない	全体
20 歳未満	2(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	2(100%)
20-29 歳	29(42.6%)	10(14.7%)	9(13.2%)	5(7.4%)	15(22.1%)	0(0%)	68(100%)
30-39 歳	16(23.5%)	30(44.1%)	8(11.8%)	6(8.8%)	8(11.8%)	0(0%)	68(100%)
40-49 歳	30(21%)	61(42.7%)	15(10.5%)	14(9.8%)	18(12.6%)	5(3.5%)	143(100%)
50-59 歳	17(18.3%)	37(39.8%)	8(8.6%)	10(10.8%)	11(11.8%)	10(10.8%)	93(100%)
60-69 歳	3(10.3%)	5(17.2%)	3(10.3%)	0(0%)	4(13.8%)	14(48.3%)	29(100%)
全体	97(24.1%)	143(35.5%)	43(10.7%)	35(8.7%)	56(13.9%)	29(7.2%)	403(100%)

p>0.001

表 5-7 婚姻状況と親との距離

	同居／敷 地内	30 分以内	60 分以内	120 分以 内	120 分以 上	いない	全体
未婚	60(64.5%)	5(5.4%)	2(2.2%)	6(6.5%)	19(20.4%)	1(1.1%)	93(100%)
既婚	33(11.4%)	130(44.8%)	40(13.8%)	28(9.7%)	34(11.7%)	25(8.6%)	290(100%)
離死別	5(25%)	8(40%)	1(5%)	1(5%)	2(10%)	3(15%)	20(100%)
全体	98(24.3%)	143(35.5%)	43(10.7%)	35(8.7%)	55(13.6%)	29(7.2%)	403(100%)

p<0.001

年齢と親との距離を表 5-6 に示した。まずは本人の年齢が 20 歳代である場合は 4 割以上が同居しているが、30 歳を超えると同居している割合が急に下がる。そのかわり 30 代以降は親との 30 分以内の距離で近居する例が増え、30 代から 50 代まで 4 割ほどが近居である。60 歳以上で 17.2%程度になるものの、両親がいる人に限定して計算すると 15 名中 5 名となり、33%ほどになる。一方、遠距離居住では 20 歳代が目立つ。20 代では 120 分以上離れたところに住んでいる人も 2 割を超え、親と遠距離居住している割合はすべての年代の中でもっとも多い。

婚姻状態別にみると、未婚者では 64.5%が親と同居しているのに対し、既婚者ではその割合が 11.4%になる。そのかわり既婚の場合は近居が多く、30 分以内が 44.8%、60 分以内は 13.8%おり、あわせて 58.6%と 6 割近くの人が親の近くに住んでいる。

まとめると、中年以降や結婚後は親と別れて住むケースが多くみられるようだ。三世帯世帯を形成するケースは少なく、結婚後は親と別居することが多くなっている。今回の調査でも、未婚者では3分の2が親と同居しているのに対し、既婚者で親と同居しているケースは1割程度にすぎなかった。

表 5-8 本人年齢と実家の空き家状況

	非空き家	空き家	全体
20歳未満	2(100%)	0(0%)	2(100%)
20-29歳	66(97.1%)	2(2.9%)	68(100%)
30-39歳	63(96.9%)	2(3.1%)	65(100%)
40-49歳	135(95.7%)	6(4.3%)	141(100%)
50-59歳	84(95.5%)	4(4.5%)	88(100%)
60-69歳	20(76.9%)	6(23.1%)	26(100%)
全体	370(94.9%)	20(5.1%)	390(100%)

$p<0.01$

年齢と実家が空き家かどうかの関係を見てみよう。第2節で述べた通り、ここでは実家に居住者がいる場合には「非空き家」とし、空き家や空き地の場合を「空き家」としてまとめた。

年齢があがるにしたがって実家が空き家になっている人は少しずつ増え、特に60歳を過ぎると実家が空き家である人の割合が急激に高まる。実家を出て一定の長い期間が過ぎてから、人生の後半になって空き家になるものであることがうかがえる。

表 5-9 親との距離と実家の空き家状況

	非空き家	空き家	全体
同居／敷地内	90(93.8%)	6(6.3%)	96(100%)
30分以内	130(95.6%)	6(4.4%)	136(100%)
60分以内	42(97.7%)	1(2.3%)	43(100%)
120分以内	34(100%)	0(0%)	34(100%)
120分以上	54(100%)	0(0%)	54(100%)
いない	19(73.1%)	7(26.9%)	26(100%)
全体	369(94.9%)	20(5.1%)	389(100%)

$p<0.001$

同じく親との距離と、実家の状態との関係をみたものが表5-9である。ここからは、まずは両親とも死亡している場合に実家が空き家になっている割合が高いことが目立つ。

このほか注意を引くのは、親と同居している場合や、親が 30 分以内のところにいるなど近居の場合にも、5 %ほど実家が空き家になっている場合があることだ。中距離～遠距離では空き家になっている例は観察されない。空き家は親が死亡した場合に発生する可能性が高まること、また同居や近居の場合に起こり得ること、などが確認できる。

5. 空き家の持ち主はどこにいるのか

以上の検討から、実家が空き家になっている人は、市内の転住者、年齢が 60 歳以上の人、両親とも無くしている人または両親と同居あるいは近居の人、などの中に見られる傾向があることがわかってきた。これらの変数を投入した多変量解析によって、実家が空き家である確率が高い人はどのような人かを考えてみよう。実家住まいの人をのぞき、市内または市外の移動経験者に限って分析を行った。

表 5-10 実家の空き家状況を従属変数とするロジスティック回帰分析

	B	標準誤差	Exp(B)
年齢（60 歳未満=0）	1.238	0.77	3.448
親との居住距離（中遠距離=0）			
同居・近居	2.337	1.144	10.348 *
両親ともいない	3.624	1.212	37.49 **
移動履歴（市外来住者=0）	0.804	0.618	2.234
定数	-5.007	1.013	0.007
-2LL	104.835		
Nagelkerke	0.301		
n=249			

実家が空き家となっているかどうかを従属変数とするロジスティック回帰分析の結果、年齢や移動履歴は効果をもたず、両親との距離だけが効果をもっていた。

親と 1 時間以上離れて暮らしている中遠距離居住者に比べると、親と同居または近居の場合と、両親とも死亡している場合に、実家が空き家になりやすい傾向にある²。

² 親と同居で実家が空き家の場合、親が子の家へ引き移り、元の家が空き家になっているケースなどが考えられる。また今回は敷地内別居も同居に含んでいるため、同一敷地内に本人と親の住宅が別々に建っており、親の住宅が空き家になっているケースなども想定できる。

6. まとめと考察

6.1 本章のまとめ

本章では、15歳時に居住していたところを「実家」とみなし、実家の現況とその規定要因を探ってきた。分析の結果、実家が空き家になっている人は5%ほどいること、実家が空き家になる契機として、両親との同近居と両親の死亡の二つがあることが明らかになった。そしてまた、多くの人は結婚後に実家から出るものの、比較的近くに住んでいることがわかった。

結婚後に親と別居することが主流となった現在では、実家はいわゆるエンプティ・ネストとなり、老親だけで過ごす時期を迎えることが珍しくない。やがてどちらか一人になったとき、子のところへ引き移るなどして元の家が空き家になったり、または二人とも亡くなって空き家になったりしてゆくのだろう。直系家族的な同居慣行がすたれた今、ほとんどの戸建て一軒家がいずれは空き家になる運命にあるとさえいえる。

ただし空き家になったとしても、当面の間は管理ができる場合が多いようだ。今回の調査からは、ライフコースを通じて市内や近隣地域での転住が行われている様子が見えてくる。結婚を機に実家から離れるが、比較的近いところに新居をかまえる。このようにして市内で完結する居住履歴をもつ人は、思った以上に多いようである。

このため空き家の所有者の多くは、市内または近い地域に住んでいることが予想される。空き家がなかなか市場に出てこない理由の一つに、管理できる距離に住んでいることもあるのだろう。逆に管理ができないような遠距離にいる場合、空き家のまま維持することは難しく、処分を迫られることになるのかもしれない。今回の調査から断言することはできないが、今後代表性のあるサンプルで確かめてみる意味はある。

6.2 近居と空き家の関係がもつ可能性

最後に、空き家の利活用を考える際にも近居慣行は一つのヒントになるように思われる。今回の調査から、半数以上の人々が、生まれた家または同じ市町内で暮らしていることがわかった。とくに市内の転住者は2割いる。この人々に向けて、ライフステージにあわせて市内で何度か転居するような、賃貸による域内回遊の居住移動をすすめる政策を考えることはできないだろうか。たとえば旧町で育った人が結婚や出産を機に家を探すとき、郊外住宅地の空き家を借りられたり、郊外に住む人が高齢期になったときに、アクセスのよい旧町市街地の空き家を借りられたりといった、市内から市内への借家移動を積極的に後押しするような施策である。

現在、空き家問題の解決にはおもに戸建ての売買が想定されているが、名張市内には戸建ての賃貸市場も存在しており、それなりに活発であるという。また、空き家を今すぐに手放す気はないが誰かに貸すのはやぶさかでないと考える所有者もいるだろう。賃貸市場を活かすことで、こうした空き家の利活用の可能性を開くことができる。

市内の借家転住への支援は戸建ての賃貸市場を活性化させるだけでなく、市外への人

口の流出を抑える効果が期待できる。さらには、地域住民のライフステージに合わせたゆるやかなゾーニングも可能になるかもしれない。空き家問題の対策として一つの選択肢になりうる可能性がある。

文献

Lipset, Seymour Martin, 1955, “Social Mobility and Urbanization,” *Rural Sociology*, 20(3): 220-8 (中村正夫訳, 1965, 「社会的移動と都市化」鈴木広編『都市化の社会学』誠信書房: 151-164.

第6章 調査の小括

小林慶太郎

1. 結果の概要

第1章でも示したように、名張商工会議所の呼び掛けに賛同した名張市内の29の事業所に勤務する全従業員2,480名を対象にwebによる質問紙調査を行い、406名の方から回答を得た（回収率16.3%）。以下、調査の結果を改めて整理してみたい。

住みやすさや居住地に対する満足度

まず、第2章で示した、住みやすさや居住地に対する満足度について見てみると、「既婚」や「子どもがいる」と回答された方の、名張市に対する総合満足度が有意に低いことが分かった。さらに「既婚」の方の場合、女性活躍への満足度も有意に低く、また「子どもがいる」方の場合、「観光」への満足度も有意に低いことが分かった。

男女別の総合満足度についても、統計的には有意な差とは言えないものの、女性の満足度の方が低いことがうかがわれ、こうしたことから、名張市が、既婚家庭の女性にとって、子育てをしづらい暮らしにくいまちだと受け取られている可能性があると言えるだろう。今後、暮らしやすさを高め、若者や女性の流出を阻止し市内での子育てにつながる政策とはどんなものなのかを考えていく上での、ヒントになるかもしれない。

働きやすい／働き続けたい職場

次に、第3章及び第4章で示した、働きやすい／働き続けたい職場についての結果も見てみたい。第3章の分析からは、今の職場を立地以外の点で積極的に選んでいる方は少ないことが分かる。また、「職場の同僚は、質の高い仕事をするように真剣に取り組んでいる」と勤続意向年数が短くなる、「職場で自分の意見は重視されている」と感じると現在の職場の推奨度合いが下がるなど、プレッシャーにさらされることを避けたい傾向があるようにも見える。

また、第4章からは、「きちんと仕事をするために必要な材料や設備がそろっている」と職務不満度が下がる傾向が有ることも明らかになった。一方で自身の成長に関する質問項目と職務不満度とは、強い相関は見られなかった³。今回の調査からは、名張市の事

³ ただし、Herzbergによる先行研究で職場満足に作用する要因とされる「承認」や、職場不満足につながる要因とされる「対人関係・上役」と、成長機会に関する項目への回答の間には、本調査でも一定の相関関係が見られたことから、第4章では、成長機会の実感が、職務満足にとっても重要な要因となりうると分析している。

業所の従業員は、それほど成長を重視していないようにも思える。

以上のことからすると、成長へのプレッシャーをあまり感じない職場が、従業員にとっては望ましい職場であるとも、言えてしまいそうであるが、それが果たして事業所にとって望ましい状況であるかどうかは、また別問題であろう。イノベーションの意欲に乏しい従業員が多い事業所では高い生産性は期待できず、そのことが地域の産業や経済の衰退を招いてしまう恐れもあるのではないだろうか。従業員の働きやすさと仕事のモチベーションを、いかに両立させ高めていけるかを模索することが、今後の課題と言えるのではないと思われる。

居住移動と空き家

最後に、第5章で見た、居住移動と空き家に関する分析を見てみたい。今回の調査では、名張市内の事業所で働く人の半数近くは、中学卒業時には現住地とは異なる市町村に住んでいたことや、実家⁴が空き家になる契機として両親の不在や子どもとの同居などがあることなどが、確認された。

その一方で、実家から離れて居住する場合であっても、比較的近い場所に新居をかまえる場合が多いこと、したがって、空き家の持ち主は意外にも空き家管理をしようとする近所に住んでいることが多く、それが要因になって、空き家がなかなか市場に出回りにくくなっているのではないかという可能性も示された。

今後、外国人労働者も含めた人材の受け入れ策などを検討していく際に、空き家・空き店舗等の利活用を念頭に置くのであれば、このような空き家の持ち主の状況を、しっかり把握していく必要があることが明らかになった。

2. 名張市の取組

本調査は、名張市における人口減少の衝撃をやわらげることを目指した「特定プロジェクト研究：実践する総合政策」の一環で行われたものであるが、ここで、地方自治体としての名張市としては、人口減少対策としてどのような政策を掲げているか、概観しておきたい。

名張市は今年度、可能な限り人口減少を食い止めるための「人口減少を和らげる施策」と、人口減少した場合においても持続できるまちを目指すための「人口減少を見据えた施策」の2本を柱とした、「なばり新時代戦略（デジタル田園都市構想総合戦略版）」を策定している。

この戦略では、「憧れの人づくり」「チャレンジできる環境づくり」「安心できるまちづくり」の3つの理想像を掲げ、「関係人口の増加」、「子育て支援における市民活動の充

⁴ 今回の調査では、「中学3年時に住んでいたところ」を指すため、社宅等も含まれることに留意する必要がある。

実や居場所づくりなどの環境整備」、「若者をはじめとする多様な雇用を生み出す就業機会、新たな雇用の創出」、「中小企業の持続性を高め」ること、「空き家の活用促進並びに適正管理や危険空き家の除去」などが主な取組として明記されている。

こうした名張市の取組は、今年度の本調査や「特定プロジェクト研究：実践する総合政策」とも、基本的に同じ方向を向いているものであると言え、その推進に際しては、協力できる部分も多いのではないかと考えられる。

3. 次年度に向けて

今年度の調査結果も踏まえて、次年度以降においても、引き続き、名張商工会議所と連携して、「特定プロジェクト研究：実践する総合政策」を推進していく予定である。

子育て支援や働き方の改革などとも関連する若者や女性の市外への流出の抑制策や、空き家等の利活用、外国人労働者等の多様な市民の受け入れ策など、検討していくべき課題は多い。

次年度においては、商工会議所だけではなく、名張市役所等ともより連携を深めながら、調査研究の深化と政策の立案に努めていきたい。

付録 1 単純集計

v5a 現在のお住まいは名張市内ですか、それとも名張市外ですか。

	度数	%
1 名張市内	311	76.6
2 名張市外	95	23.4
合計	406	100.0

v5b 「名張市外」と回答された方におたずねします。お住まいの市町村はどちらですか。

	度数	%
1 東京都北区	1	0.2
2 神奈川県横浜市	1	0.2
3 愛知県名古屋市	1	0.2
4 三重県津市	14	3.4
5 三重県松阪市	2	0.5
6 三重県伊賀市	51	12.6
7 大阪府岸和田市	1	0.2
8 大阪府和泉市	1	0.2
9 大阪府柏原市	1	0.2
10 大阪府東大阪市	1	0.2
11 奈良県奈良市	2	0.5
12 奈良県天理市	1	0.2
13 奈良県橿原市	3	0.7
14 奈良県桜井市	2	0.5
15 奈良県香芝市	2	0.5
16 奈良県宇陀市	7	1.7
17 奈良県曽爾村	1	0.2
18 奈良県	1	0.2
88 非該当	311	76.6
99 不明	2	0.5
合計	406	100.0

v6_1 公共交通の使い勝手の良さ

	度数	%
1 満足している	30	7.4
2 やや満足している	97	23.9
3 どちらともいえない	109	26.8
4 やや不満である	107	26.4
5 不満である	63	15.5
合計	406	100.0

v6_2 観光産業や旅行者の活発さ

	度数	%
1 満足している	12	3.0
2 やや満足している	47	11.6
3 どちらともいえない	139	34.2
4 やや不満である	130	32.0
5 不満である	76	18.7
9 不明	2	0.5
合計	406	100.0

v6_3 自治会活動などの活発さ

	度数	%
1 満足している	17	4.2
2 やや満足している	71	17.5
3 どちらともいえない	231	56.9
4 やや不満である	60	14.8
5 不満である	24	5.9
9 不明	3	0.7
合計	406	100.0

v6_4 住宅の供給状況・空き家対策など

	度数	%
1 満足している	10	2.5
2 やや満足している	49	12.1
3 どちらともいえない	202	49.8
4 やや不満である	89	21.9
5 不満である	53	13.1
9 不明	3	0.7
合計	406	100.0

v6_5 職場や地域での女性の活躍状況

	度数	%
1 満足している	19	4.7
2 やや満足している	92	22.7
3 どちらともいえない	219	53.9
4 やや不満である	50	12.3
5 不満である	23	5.7
9 不明	3	0.7
合計	406	100.0

v6_6 外国人住民との共生・多文化理解の程度

	度数	%
1 満足している	16	3.9
2 やや満足している	64	15.8
3 どちらともいえない	244	60.1
4 やや不満である	58	14.3
5 不満である	21	5.2
9 不明	3	0.7
合計	406	100.0

v6_7 お住まいの自治体の【総合満足度】

	度数	%
1 満足している	21	5.2
2 やや満足している	123	30.3
3 どちらともいえない	151	37.2
4 やや不満である	75	18.5
5 不満である	33	8.1
9 不明	3	0.7
合計	406	100.0

v7 あなたが中学3年生になったとき、住んでいたところはどこですか。

	度数	%
1 現在とおなじところ	140	34.5
2 同じ市町村内	81	20.0
3 別の市町村（国外含む）	185	45.6
合計	406	100.0

v8 あなたが中学3年生になったとき住んでいたところは、今どうなっていますか。

	度数	%
1 親きょうだいやおい・めいなど、親族が住んでいる（建て替わっている場合も含む）	338	83.3
2 別の誰かが住んでいる（建て替わっている場合も含む）	33	8.1
4 誰も住んでおらず、空き家になっている	16	3.9
5 誰も住んでおらず、更地や空き地になっている	4	1.0
6 わからない	15	3.7
合計	406	100.0

v10 あなたは今お住まいの市町村に、これからも住み続けたいと思いますか。

	度数	%
1 できるだけ長く住み続けたい	123	30.3
2 どちらかといえば住み続けたい	193	47.5
3 どちらかといえば転出したい	79	19.5
4 できるだけ早く転出したい	10	2.5
9 不明	1	0.2
合計	406	100.0

v11 あなたは、現在の職場に何年勤続されていますか。

	度数	%
1 1 年未満	19	4.7
2 1～5 年未満	72	17.7
3 5～10 年未満	68	16.7
4 10～20 年未満	88	21.7
5 20～30 年未満	100	24.6
6 30～40 年未満	46	11.3
7 40 年以上	13	3.2
合計	406	100.0

v12_1 仕事は生きがいにつながる

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	24	5.9
2 どちらかといえば当てはまる	172	42.4
3 どちらともいえない	117	28.8
4 どちらかといえば当てはまらない	63	15.5
5 全く当てはまらない	30	7.4
合計	406	100.0

v12_2 仕事はお金を得るためのものだ

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	154	37.9
2 どちらかといえば当てはまる	215	53.0
3 どちらともいえない	28	6.9
4 どちらかといえば当てはまらない	9	2.2
合計	406	100.0

v12_3 勤務する曜日・時間などを柔軟に調整できる

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	36	8.9
2 どちらかといえば当てはまる	156	38.4
3 どちらともいえない	79	19.5
4 どちらかといえば当てはまらない	74	18.2
5 全く当てはまらない	61	15.0
合計	406	100.0

v12_4 職場の人間関係やコミュニケーションは良好である

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	44	10.8
2 どちらかといえば当てはまる	215	53.0
3 どちらともいえない	98	24.1
4 どちらかといえば当てはまらない	35	8.6
5 全く当てはまらない	14	3.4
合計	406	100.0

v12_5 職場の賃金（給与・賞与）や福利厚生に満足している

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	19	4.7
2 どちらかといえば当てはまる	145	35.7
3 どちらともいえない	102	25.1
4 どちらかといえば当てはまらない	90	22.2
5 全く当てはまらない	50	12.3
合計	406	100.0

v12_6 職場に対して不満がある

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	40	9.9
2 どちらかといえば当てはまる	104	25.6
3 どちらともいえない	146	36.0
4 どちらかといえば当てはまらない	86	21.2
5 全く当てはまらない	30	7.4
合計	406	100.0

v13_1 職場で自分に何が期待されているか分かっている

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	27	6.7
2 どちらかといえば当てはまる	224	55.2
3 どちらともいえない	108	26.6
4 どちらかといえば当てはまらない	33	8.1
5 全く当てはまらない	13	3.2
9 不明	1	0.2
合計	406	100.0

v13_2 きちんと仕事をするために必要な材料や設備がそろっている

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	26	6.4
2 どちらかといえば当てはまる	203	50.0
3 どちらともいえない	98	24.1
4 どちらかといえば当てはまらない	59	14.5
5 全く当てはまらない	20	4.9
合計	406	100.0

v13_3 職場では、毎日自分の得意なことをする機会がある

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	17	4.2
2 どちらかといえば当てはまる	153	37.7
3 どちらともいえない	160	39.4
4 どちらかといえば当てはまらない	51	12.6
5 全く当てはまらない	24	5.9
9 不明	1	0.2
合計	406	100.0

v13_4 最近7日間に、良い仕事をしたことを認められたり、褒められたりしたことがある

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	19	4.7
2 どちらかといえば当てはまる	89	21.9
3 どちらともいえない	122	30.0
4 どちらかといえば当てはまらない	87	21.4
5 全く当てはまらない	87	21.4
9 不明	2	0.5
合計	406	100.0

v13_5 上司や同僚のなかに、自分を一人の人間として気にかけてくれる人がいる

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	70	17.2
2 どちらかといえば当てはまる	192	47.3
3 どちらともいえない	91	22.4
4 どちらかといえば当てはまらない	36	8.9
5 全く当てはまらない	15	3.7
9 不明	2	0.5
合計	406	100.0

v13_6 職場には私の成長を促してくれる人がいる

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	40	9.9
2 どちらかといえば当てはまる	158	38.9
3 どちらともいえない	111	27.3
4 どちらかといえば当てはまらない	58	14.3
5 全く当てはまらない	38	9.4
9 不明	1	0.2
合計	406	100.0

v13_7 職場で自分の意見は重視されている

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	26	6.4
2 どちらかといえば当てはまる	177	43.6
3 どちらともいえない	124	30.5
4 どちらかといえば当てはまらない	55	13.5
5 全く当てはまらない	19	4.7
9 不明	5	1.2
合計	406	100.0

v13_8 会社の使命や目的は、仕事を重要だと感じさせてくれる

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	20	4.9
2 どちらかといえば当てはまる	171	42.1
3 どちらともいえない	135	33.3
4 どちらかといえば当てはまらない	49	12.1
5 全く当てはまらない	29	7.1
9 不明	2	0.5
合計	406	100.0

v13_9 職場の同僚は、質の高い仕事をするよう真剣に取り組んでいる

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	28	6.9
2 どちらかといえば当てはまる	189	46.6
3 どちらともいえない	119	29.3
4 どちらかといえば当てはまらない	46	11.3
5 全く当てはまらない	23	5.7
9 不明	1	0.2
合計	406	100.0

v13_10 職場に親友と呼べる人がいる

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	17	4.2
2 どちらかといえば当てはまる	100	24.6
3 どちらともいえない	108	26.6
4 どちらかといえば当てはまらない	75	18.5
5 全く当てはまらない	104	25.6
9 不明	2	0.5
合計	406	100.0

v13_11 この半年の間に、職場で私の成長具合について話してくれた人がいる

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	26	6.4
2 どちらかといえば当てはまる	106	26.1
3 どちらともいえない	119	29.3
4 どちらかといえば当てはまらない	67	16.5
5 全く当てはまらない	87	21.4
9 不明	1	0.2
合計	406	100.0

v13_12 この1年間、私は職場で学び、成長する機会に恵まれた

	度数	%
1 ぴったり当てはまる	34	8.4
2 どちらかといえば当てはまる	156	38.4
3 どちらともいえない	107	26.4
4 どちらかといえば当てはまらない	58	14.3
5 全く当てはまらない	47	11.6
9 不明	4	1.0
合計	406	100.0

v14_1 転職には手間や時間がかかるから

	度数	%
0 あてはまらない	244	60.1
1 あてはまる	162	39.9
合計	406	100.0

v14_2 楽な仕事だから

	度数	%
0 あてはまらない	383	94.3
1 あてはまる	23	5.7
合計	406	100.0

v14_3 倒産や閉鎖などの不安が少ないから

	度数	%
0 あてはまらない	335	82.5
1 あてはまる	71	17.5
合計	406	100.0

v14_4 仕事の内容が自分の興味のあることだから

	度数	%
0 あてはまらない	323	79.6
1 あてはまる	83	20.4
合計	406	100.0

v14_5 職場の理念や目指していることに共感できるから

	度数	%
0 あてはまらない	399	98.3
1 あてはまる	7	1.7
合計	406	100.0

v14_6 上司がいい指導をしてくれるから

	度数	%
0 あてはまらない	383	94.3
1 あてはまる	23	5.7
合計	406	100.0

v14_7 職場の人間関係やコミュニケーションが良好だから

	度数	%
0 あてはまらない	305	75.1
1 あてはまる	101	24.9
合計	406	100.0

v14_8 他にいい仕事がないから

	度数	%
0 あてはまらない	255	62.8
1 あてはまる	151	37.2
合計	406	100.0

v14_9 便利な立地だから

	度数	%
0 あてはまらない	252	62.1
1 あてはまる	154	37.9
合計	406	100.0

v14_10 勤務する曜日・時間などを柔軟に調整できるから

	度数	%
0 あてはまらない	324	79.8
1 あてはまる	82	20.2
合計	406	100.0

v14_11 自分が将来、成長できそうだから

	度数	%
0 あてはまらない	377	92.9
1 あてはまる	29	7.1
合計	406	100.0

v14_12 賃金（給与・賞与）や福利厚生がいいから

	度数	%
0 あてはまらない	287	70.7
1 あてはまる	119	29.3
合計	406	100.0

v14_13 仕事の達成感を感じられるから

	度数	%
0 あてはまらない	355	87.4
1 あてはまる	51	12.6
合計	406	100.0

v14_14 表彰されるなど、賃金以外でも自分が承認されていると感じるから

	度数	%
0 あてはまらない	402	99.0
1 あてはまる	4	1.0
合計	406	100.0

v14_15 職場のなかで信頼され、責任を与えられていると感じるから

	度数	%
0 あてはまらない	335	82.5
1 あてはまる	71	17.5
合計	406	100.0

v14_16 自分の得意なことや専門性を発揮できる仕事だから

	度数	%
0 あてはまらない	326	80.3
1 あてはまる	80	19.7
合計	406	100.0

v14_17 その他

	度数	%
0 あてはまらない	391	96.3
1 あてはまる	15	3.7
合計	406	100.0

v15 あなたは、現在の勤務先でこれから何年、働くつもりですか。当てはまるものを1つ選んでください。

	度数	%
1 1 年未満	11	2.7
2 1-5 年未満	67	16.5
3 5-10 年未満	72	17.7
4 10-20 年未満	90	22.2
5 20-30 年未満	31	7.6
6 30-40 年未満	16	3.9
7 40 年以上	12	3.0
9 不明	107	26.4
合計	406	100.0

v16 あなたは現在の職場で働くことを、親しい知人や友人にどの程度すすめたいと思いますか。

	度数	%
0	43	10.6
1	17	4.2
2	45	11.1
3	68	16.7
4	26	6.4
5	105	25.9
6	25	6.2
7	39	9.6
8	25	6.2
9	5	1.2
10	7	1.7
99 不明	1	0.2
合計	406	100.0

v17 現在のお仕事はどのような働き方ですか。次からあてはまるものを選んでください。

	度数	%
1 正社員（正規雇用）	354	87.2
2 契約社員・派遣社員・嘱託など	26	6.4
3 パート・アルバイト	24	5.9
9 不明	2	0.5
合計	406	100.0

v18 現在は何か役職についていますか。次からもっとも近いものを選んでください。

	度数	%
1 役職なし	203	50.0
2 職長・班長・主任など	58	14.3
3 係長相当	44	10.8
4 課長相当	66	16.3
5 部長相当	25	6.2
6 経営者・役員相当	9	2.2
9 不明	1	0.2
合計	406	100.0

v19 お勤め先の業種は何ですか。次からあてはまるものを選んでください。2

	度数	%
1 農林漁業	1	0.2
2 鉱業・建設業	1	0.2
3 製造業	269	66.3
4 電気・ガス・熱供給・水道業	52	12.8
6 卸売業、小売業	1	0.2
7 飲食業、宿泊業	4	1.0
8 金融業、保険業	9	2.2
10 新聞・放送・出版・広告業	21	5.2
11 情報・通信サービス業	45	11.1
13 教育・研究サービス業	1	0.2
99 不明	2	0.5
合計	406	100.0

v20 お勤め先の人数はどのくらいですか。

	度数	%
1 5 人未満	4	1.0
2 5-19 人	8	2.0
3 20-99 人	56	13.8
4 100-999 人	309	76.1
5 1000 人以上	29	7.1
合計	406	100.0

v21 よろしければ、お勤め先の企業名をお書きください。

	度数	%
	221	54.4
LIXIL	21	5.2
MSJ	1	0.2
アクサ生命	1	0.2
アドバンスコープ	22	5.4
エナジーウィズ	6	1.5
オキツモ	14	3.4
グッドライフ	5	1.2
サロンアスピア	1	0.2
ジェイテクト	10	2.5
タカキタ	27	6.7
フジシール	2	0.5
ボルグワーナー	36	8.9
ユー	4	1.0
菊水テープ	4	1.0
藤森工業	11	2.7
忍法赤目プリン	1	0.2
名張近鉄ガス	19	4.7
合計	406	100.0

v22 あなたの性別をお答えください。

	度数	%
1 男性	299	73.6
2 女性	104	25.6
9 不明	3	0.7
合計	406	100.0

v23 現在の年齢はおいくつですか。あてはまるものを選んでください。

	度数	%
1 20 歳未満	2	0.5
2 20-29 歳	68	16.7
3 30-39 歳	68	16.7
4 40-49 歳	145	35.7
5 50-59 歳	93	22.9
6 60-69 歳	29	7.1
9 不明	1	0.2
合計	406	100.0

v24 最後に通った学校は次のどれにあてはまりますか。在学中も含めてお答えください。

	度数	%
1 中学校	2	0.5
2 高等学校	140	34.5
3 専門学校	43	10.6
4 短大・高専	36	8.9
5 大学	161	39.7
6 大学院	21	5.2
9	3	0.7
合計	406	100.0

v25 ご家族についてうかがいます。あなたは今、誰かと一緒に住んでいますか。次からあてはまるものを選んでください。

	度数	%
1 一人暮らし（あなただけ）	46	11.3
2 夫婦のみの世帯（事実婚も含む）	93	22.9
3 二世帯世帯（親と子）	230	56.7
4 三世帯世帯（親と子と孫）	26	6.4
5 友人や知人と住んでいる世帯	5	1.2
9 不明	6	1.5
合計	406	100.0

v26 あなたの親は、どこにお住まいですか。

	度数	%
1 同居または同じ敷地内	98	24.1
2 30分以内で行けるところ	143	35.2
3 30分～1時間以内で行けるところ	43	10.6
4 1時間～2時間以内で行けるところ	35	8.6
5 2時間以上かかるところ	56	13.8
6 両親ともいない	29	7.1
9	2	0.5
合計	406	100.0

v27 あなたは結婚していますか。あてはまるものを選んでください。

	度数	%
1 未婚	93	22.9
2 既婚	292	71.9
3 死別・離別	20	4.9
9 不明	1	0.2
合計	406	100.0

v28 あなたには子どもがいますか。

	度数	%
1 いる	270	66.5
2 いない	135	33.3
9 不明	1	0.2
合計	406	100.0

v29 今のお住まいは次のどれにあてはまりますか。

	度数	%
1 戸建て（賃貸含む）	331	81.5
2 分譲マンションなど持ち家の集合住宅	2	0.5
3 賃貸のマンション・アパートなどの集合住宅	67	16.5
4 寮など	4	1.0
9 その他	2	0.5
合計	406	100.0

v30 あなたは、ご自分の現在の経済的な暮らし向きについてどのようにお考えですか。

	度数	%
1 家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている	71	17.5
2 家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている	225	55.4
3 家計にゆとりがなく、多少心配である	84	20.7
4 家計が苦しく、非常に心配である	23	5.7
9 不明	3	0.7
合計	406	100.0

v31 あなたの国籍を教えてください。

	度数	%
1 日本	404	99.5
6 韓国	1	0.2
9 不明	1	0.2
合計	406	100.0

v32 アンケートへのご意見をご自由にお書きください。

	度数	%
0 記入なし	371	91.4
1 記入あり	35	8.6
合計	406	100.0

付録２ 自由回答

・地域活性化に繋がりますので伊賀上野へのバイパスを早く４車線にしてください。他の地域に比べてこの重要な工事の進捗が特に遅い

・映画館・PC ショップなど近郊に無い物を誘致して、休日に市街に出なくてもよい様に、街づくりをしては？

・安心して散歩や運動ができる大きな公園が名張にはありません。他の街は力を入れて整備していると思います。

・夜間は道が暗くて徒歩や自転車の移動は困難です。

・外国人の方を見かけるようになったが、アジア系の大多数は日本の文化になじむ気もないように感じる、ここで記載すべき内容ではないだろうが適切な取り締まりが必要になるのだろうか、と不安を感じる

・名張市がもっと商業的に発展してほしい

・地域の活性化に期待します。

・戸建て購入にあたり、自分が高齢になった時の医療体制や買い物の足、新興住宅地が一斉に高齢化することによる地域コミュニティの持続性などに懸念を感じたので、名張市から橿原市に転居した。懸念が小さければ職場に近い名張市に住んでいたかもしれない。

・頑張って子供そだてて長生きします

・名張は病院が弱く（特に脳神経外科系）、事故時・大病時の対応に不安がある

・名張市が市民にもっとやさしくあってほしい。子育てなどの支援が、他地域と差が大きく、そのしわ寄せが家庭にきて、大変である。

・大きな商業施設を誘致する事で雇用場所が増えるし、県外に出ていくことも少なくなると思います

・年寄りと外人が多く、色々な面で心配が多い。

・市外の方にも来て頂けるような定期的な町おこしイベントが欲しい。その点伊賀市は色々やってるなあと思います。

・まだまだ名張に住む予定なので過ごしやすい暮らしやすい街になることを信じています

・働く環境自体は、さほど問題ではなく、休日の娯楽の少なさが人口減少の要因だと考えられます。

・田舎で働き先も少ないし、賃金は安いし…よっぽどの魅力がなければ転出は増えるでしょうね。我が家もまだ動けるうちに墓じまいをして、車が無くても生活に困らない地域に引っ越すことを考えています。

・産業がなく若者が流出している。

・仕事は嫌いではありませんし、辞めるつもりもありませんが、毎日一生懸命働いていることがバカらしく思えることがあります。

・給料はどうせ上がらないと思っているので、せめて休みが平均的にあるとか、正社員でも副業が認められる会社がいいですね。

・質問内容が分かりやすかった。

・定期的にこういったヒアリングを継続していただきたいです。一市民の一人として認識されている実感が湧くことによる安心感があります。よろしくお願いいたします。

・住みたい地域と働きたい職場を1つのアンケートにしてしまう意味があるのか分かりませんでした。住みたい地域、であればそれをもっと深掘りしないとおもしろい調査結果や意見が得られないのでは？とは思いました。

・このアンケートでより住みやすい名張になることを祈ります

・今回の設問内容のみで果たして住み続けるための意見が収集できるのかと感じました。

・アンケート結果をホームページ等で閲覧できれば

- ・全体のアンケート結果に興味があります。

- ・アンケートの集計結果が気になります。

- ・アンケートを通して、勤務先に対する印象を客観的に認識できた。

・私には、保育園に通う子どもがおり、フルタイムで働いていますが、今勤めている会社を含めとても女性の働き辛さを感じています。ある程度、任せられる仕事も増えているので定時では帰れず、七時頃にしか子どもを迎えに行けないのですが、保育園の預かり時間も市内の会社へ勤めているというだけで、預かり時間も延長してもらえず、ほぼ毎日延長料金を払っています。

都心のようにとは、言いませんが、こうやって働いている女性も少なくはないはずだと思います。もう少し改善するとよいのですが、お隣の伊賀市と比べて子供の支援なども違うし、税金も高いし、移住したいねーと夫と話すこともよくあります。

- ・男性も女性も働きやすい環境になればよいですね。

仕事と子育てを両立できるよう、公的に支援してもらえる環境を手厚くして欲しい。残業があっても子どもを見守ってもらえる場が欲しい。

・名張市に住んでおり小学生、中学生の子供がいます。名張市は給食が有償です。隣の伊賀市は無償です。市政の取り組み方によって子育ての方針が異なり家計に大きな負担となっています。名張市は福祉に力を入れていると伺いますがあまり表面化されておらず。今後の改革に期待します。

付録3 調査票

住み続けたい地域と働きたい職場に関するアンケート

名張をもっと住みやすく働きやすい町にするために、名張商工会議所と四日市大学が連携して調査をしています。約10分のアンケートにご協力ください。

このアンケートは無記名です。回答の秘密は厳守されます。回答はすべて四日市大学で統計処理し、「〇と答えた人が△%」のように集計した結果のみ公表します。一人一人の回答が、勤務先を含む第三者に開示されることはありません。

調査期間は8/26（月）から9/15（日）までです。
（注：8/20より回答いただけるようになりました）

あなたのご意見をお聞かせください。

調査主体 名張商工会議所・四日市大学公共政策研究所
お問い合わせ先（担当：三田）
nabaritokup@yokkaichi-u.ac.jp

はじめに、お住まいの地域についてうかがいます。

1. 現在のお住まいは名張市内ですか、それとも名張市外ですか。

- ☐ 名張市内
- ☐ 名張市外

2. 「名張市外」と回答された方におたずねします。お住まいの市町村はどちらですか。

3. お住まいの自治体の満足度をお答えください。

	満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である
公共交通の使い勝手の良さ	☐	☐	☐	☐	☐
観光産業や旅行者の活発さ	☐	☐	☐	☐	☐
自治会活動などの活発さ	☐	☐	☐	☐	☐
住宅の供給状況・空き家対策など	☐	☐	☐	☐	☐
職場や地域での女性の活躍状況	☐	☐	☐	☐	☐
外国人住民との共生・多文化理解の程度	☐	☐	☐	☐	☐
お住まいの自治体の【総合満足度】	☐	☐	☐	☐	☐

4. あなたが中学3年生になったとき、住んでいたところはどこですか。

合併があった場合は現在の市町村の範囲でお考えください

- ☐ 現在と同じところ
- ☐ 同じ市町村内の別のところ
- ☐ 別の市町村内（国外も含む）

5. あなたが中学3年生になったとき住んでいたところは、今どうなっていますか。

あなた自身もご親族に含めてお答えください。

- ☐ 親きょうだいやおい・めいなど、親族が住んでいる（建て替わっている場合も含む）
- ☐ 別の誰かが住んでいる（建て替わっている場合も含む）
- ☐ 誰も住んでおらず、事務所や店舗、駐車場などになっている
- ☐ 誰も住んでおらず、空き家になっている
- ☐ 誰も住んでおらず、更地や空き地になっている
- ☐ わからない
- ☐ その他

6. あなたは今お住まいの市町村に、通算で何年くらい住んでいますか。

合併があった場合は現在の市町村の範囲でお考えください

- ☐ 1年未満
- ☐ 1～5年未満
- ☐ 5年～10年未満
- ☐ 10年～20年未満
- ☐ 20年～30年未満
- ☐ 30年以上

7. あなたは今お住まいの市町村に、これからも住み続けたいと思いますか。

- ☐ できるだけ長く住み続けたい
- ☐ どちらかといえば住み続けたい
- ☐ どちらかといえば転出したい
- ☐ できるだけ早く転出したい

次に、職場の働きやすさについてうかがいます。

8. あなたは、現在の職場に何年勤務されていますか。

- ☐ 1年未満
- ☐ 1～5年未満
- ☐ 5～10年未満
- ☐ 10～20年未満
- ☐ 20～30年未満
- ☐ 30～40年未満
- ☐ 40年以上

9. 以下の各項目は、あなたに当てはまりますか。「ぴったり当てはまる」から「全く当てはまらない」までのなかから選んでください。

	ぴったり当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらともいえない	どちらかといえば当てはまらない	全く当てはまらない
仕事は生きがいにつながる	☐	☐	☐	☐	☐
仕事はお金を得るためのものだ	☐	☐	☐	☐	☐
勤務する曜日・時間などを柔軟に調整できる	☐	☐	☐	☐	☐
職場の人間関係やコミュニケーションは良好である	☐	☐	☐	☐	☐
職場の賃金（給与・賞与）や福利厚生に満足している	☐	☐	☐	☐	☐
職場に対して不満がある	☐	☐	☐	☐	☐

10. 以下の各項目は、あなたに当てはまりますか。「ぴったり当てはまる」から「全く当てはまらない」までのなかから選んでください。

	ぴったり当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらともいえない	どちらかといえば当てはまらない	全く当てはまらない
職場で自分に何が期待されているか分かっている	☐	☐	☐	☐	☐
きちんと仕事をするために必要な材料や設備がそろっている	☐	☐	☐	☐	☐
職場では、毎日自分の得意なことをする機会がある	☐	☐	☐	☐	☐
最近7日間に、良い仕事をしたことを認められたり、褒められたりしたことがある	☐	☐	☐	☐	☐
上司や同僚のなかに、自分を一人の人間として気にかけてくれる人がいる	☐	☐	☐	☐	☐
職場には私の成長を促してくれる人がいる	☐	☐	☐	☐	☐
職場で自分の意見は重視されている	☐	☐	☐	☐	☐
会社の使命や目的は、仕事を重要だと感じさせてくれる	☐	☐	☐	☐	☐
職場の同僚は、質の高い仕事をするよう真剣に取り組んでいる	☐	☐	☐	☐	☐
職場に親友と呼べる人がいる	☐	☐	☐	☐	☐
この半年の間に、職場で私の成長具合について話してくれた人がいる	☐	☐	☐	☐	☐
この1年間、私は職場で学び、成長する機会に恵まれた	☐	☐	☐	☐	☐

11. あなたが今の職場で働いている主な理由を4つまで選んでください

最大 4 個のオプションを選択してください。

- ☐ 表彰されるなど、賞金以外でも自分が承認されていると感じるから
- ☐ 仕事の内容が自分の興味のあることから
- ☐ 自分が将来、成長できそうだから
- ☐ 自分の得意なことや専門性を発揮できる仕事だから
- ☐ 勤務する曜日・時間などを柔軟に調整できるから
- ☐ 職場の人間関係やコミュニケーションが良好だから
- ☐ 他にいい仕事がないから
- ☐ 上司がいい指導をしてくれるから
- ☐ 職場の理念や目指していることに共感できるから
- ☐ 便利な立地だから
- ☐ 職場のなかで信頼され、責任を与えられていると感じるから
- ☐ 賃金（給与・賞与）や福利厚生がいいから
- ☐ 仕事の達成感を感じられるから
- ☐ 楽な仕事だから
- ☐ 倒産や閉鎖などの不安が少ないから
- ☐ 転職には手間や時間がかかるから
- ☐ その他

12. あなたは、現在の勤務先でこれから何年、働くつもりですか。当てはまるものを1つ選んでください。

- ☐ 1年未満
- ☐ 1～5年未満
- ☐ 5～10年未満
- ☐ 10～20年未満
- ☐ 20～30年未満
- ☐ 30～40年未満
- ☐ 40年以上
- ☐ わからない

次に、現在のお仕事についてうかがいます。

14. 現在のお仕事はどのような働き方ですか。次からあてはまるものを選んでください。
複数のお仕事をされている場合は、もっとも収入の多いものをお答えください。

- ☐ 正社員（正規雇用）
- ☐ 契約社員・派遣社員・嘱託など
- ☐ パート・アルバイト
- ☐ 業務委託／フリーランス
- ☐ その他

15. 現在は何が役職についていますか。次からもっとも近いものを選んでください。

- ☐ 役職なし
- ☐ 職長・班長・主任など
- ☐ 係長相当
- ☐ 課長相当
- ☐ 部長相当
- ☐ 経営者・役員相当
- ☐ その他

16. お勤め先の業種は何ですか。次からあてはまるものを選んでください。

- ☐ 農林漁業
- ☐ 鉱業・建設業
- ☐ 製造業
- ☐ 電気・ガス・熱供給・水道業
- ☐ 運輸業、郵便業
- ☐ 卸売業、小売業
- ☐ 飲食業、宿泊業
- ☐ 金融業、保険業
- ☐ 不動産業、物品賃貸業
- ☐ 新聞・放送・出版・広告業
- ☐ 情報・通信サービス業
- ☐ 医療・福祉サービス業
- ☐ 教育・研究サービス業
- ☐ 法律・会計サービス業
- ☐ その他

17. お勤め先の人数はどのくらいですか。

会社全体の人数をお答えください。おおよそで結構です。

- ☐ 5人未満
- ☐ 5人～19人くらい
- ☐ 20人～99人くらい
- ☐ 100人～999人くらい
- ☐ 1000人以上いる

18. よろしければ、お勤め先の企業名をお書きください。

企業別平均値の集計にのみ使用します。あなたの回答が企業に開示されることはありません。

さいごに、あなたご自身についてうかがいます。

差し支えない範囲でお答えください。

19. あなたの性別をお答えください。
ご自身の認識する性でお答えください。

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ その他

20. 現在の年齢はいくつですか。あてはまるものを選んでください。

- ☐ 20歳未満
- ☐ 20～29歳
- ☐ 30～39歳
- ☐ 40～49歳
- ☐ 50～59歳
- ☐ 60～69歳
- ☐ 70歳以上

21. 最後に通った学校は次のどれにあてはまりますか。在学中も含めてお答えください。

- ☐ 中学校
- ☐ 高等学校
- ☐ 専門学校
- ☐ 短大・高専
- ☐ 大学
- ☐ 大学院

22. ご家族についてうかがいます。あなたは今、誰かと一緒に住んでいますか。次からあてはまるものを選んでください。

- ☐ 一人暮らし（あなただけ）
- ☐ 夫婦のみの世帯（事実婚も含む）
- ☐ 二世帯世帯（親と子）
- ☐ 三世帯世帯（親と子と孫）
- ☐ 友人や知人と住んでいる世帯
- ☐ その他

23. あなたの親は、どこにお住まいですか。

普段お使いになる交通手段の時間でお答えください。親御さんが別々に住んでいる場合は、近い方についてお答えください。

- ☐ 同居または同じ敷地内
- ☐ 30分以内で行けるところ
- ☐ 30分～1時間以内で行けるところ
- ☐ 1時間～2時間以内で行けるところ
- ☐ 2時間以上かかるところ
- ☐ 両親ともいない
- ☐ その他

24. あなたは結婚していますか。あてはまるものを選んでください。

内縁や事実婚も含みます。

- ☐ 未婚
- ☐ 既婚
- ☐ 離別・死別

25. あなたには子どもがいますか。

年齢や同居の有無は問いません。

- ☐ いる
- ☐ いない
- ☐ その他

26. 今のお住まいは次のどれにあてはまりますか。

- ☐ 戸建て（賃貸含む）
- ☐ 分譲マンションなど持ち家の集合住宅
- ☐ 賃貸のマンション・アパートなどの集合住宅
- ☐ 寮など
- ☐ その他

27. あなたは、ご自分の現在の経済的な暮らしについてどのようにお考えですか。

- ☐ 家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている
- ☐ 家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている
- ☐ 家計にゆとりがなく、多少心配である
- ☐ 家計が苦しく、非常に心配である

28. あなたの国籍を教えてください。

- ☐ 日本
- ☐ フィリピン
- ☐ 中国
- ☐ ベトナム
- ☐ ブラジル
- ☐ 韓国
- ☐ その他

執筆者（執筆順）

三田泰雅 四日市大学総合政策学部 教授・学部長
第1章・第5章

吉川和挟 四日市大学総合政策学部 特任准教授
第2章

二村建也 四日市大学総合政策学部 特任助教
第3章

川崎綾子 四日市大学総合政策学部 特任准教授
第4章

小林慶太郎 四日市大学副学長・総合政策学部 教授
第6章

住み続けたい地域と働きたい職場に関するアンケート 調査報告書
－実践する総合政策－

四日市大学公共政策研究所編

発行：四日市大学
2025 年 3 月 14 日発行